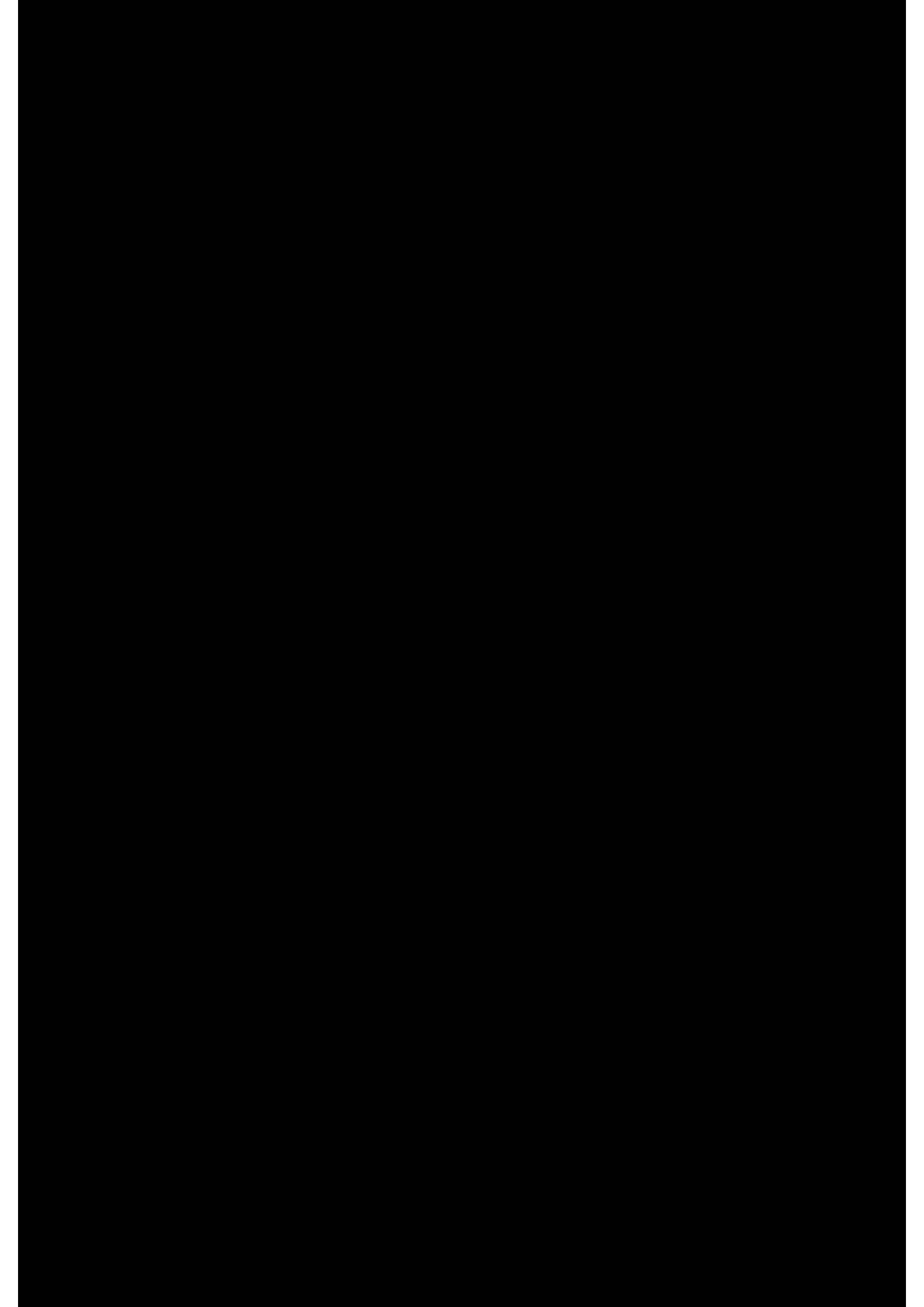




無敵







見える
……

なにか
見える……

でも
なにか
……

なにか
ああ……



見える
ように
なったの
ねえええ



なにも欠けた
ところがない

まったく
人間になり
ましたねえ



ああああ……

……でも……

なななんかあ……

はあ

はあ

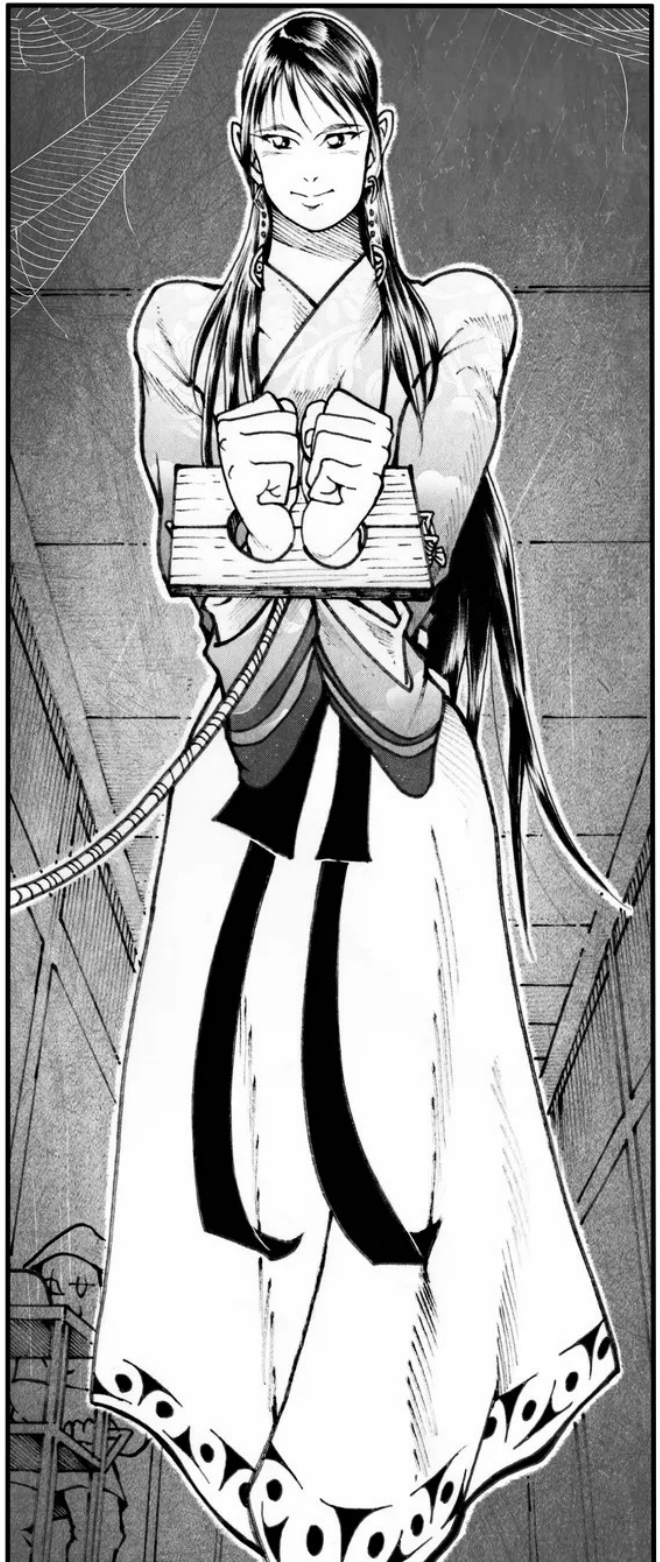
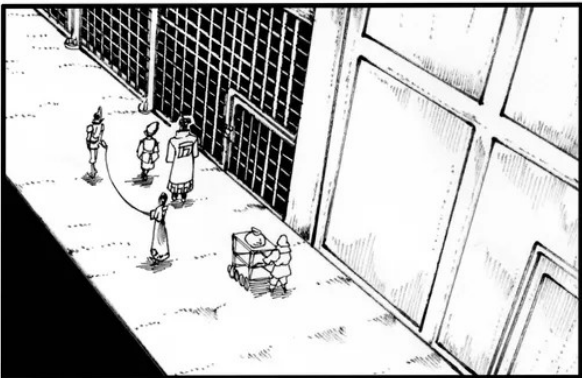
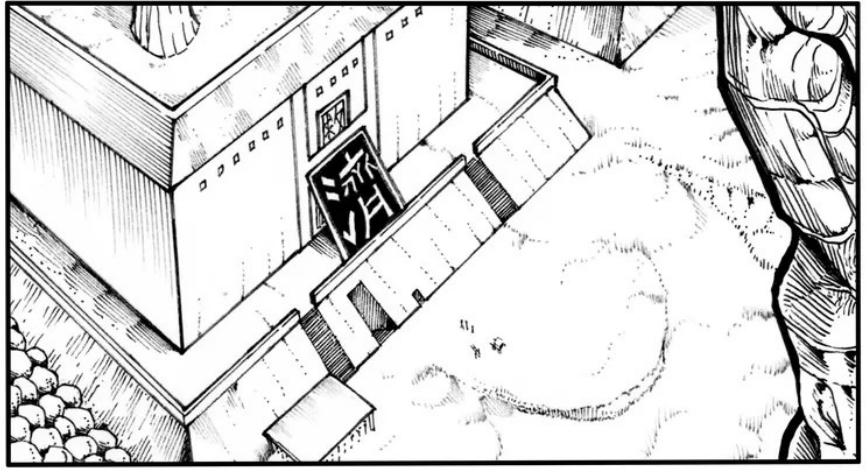
なんかあ
あああ……

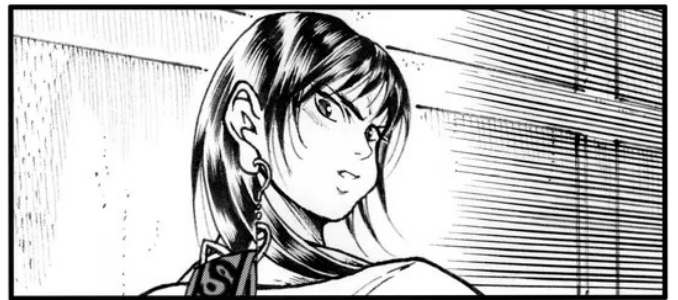
ムラマアアア

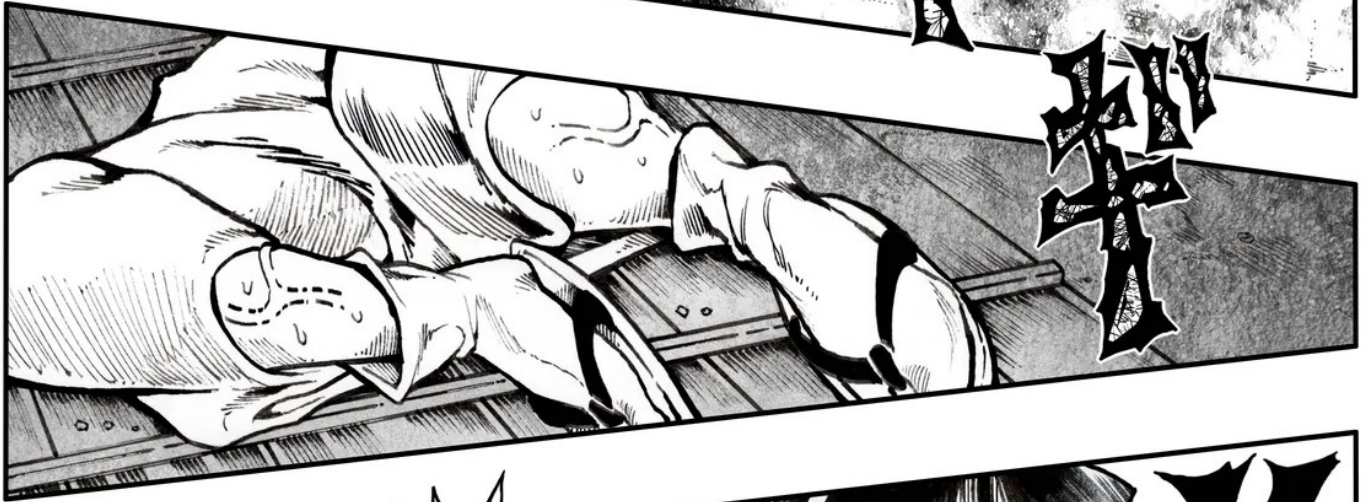


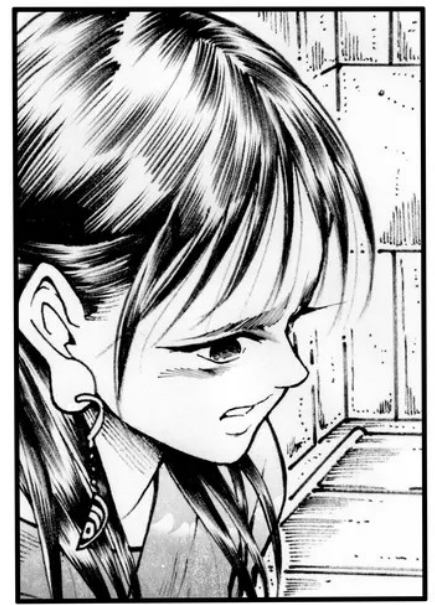
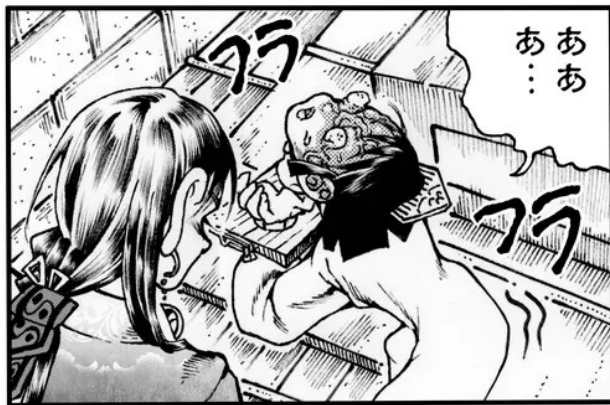
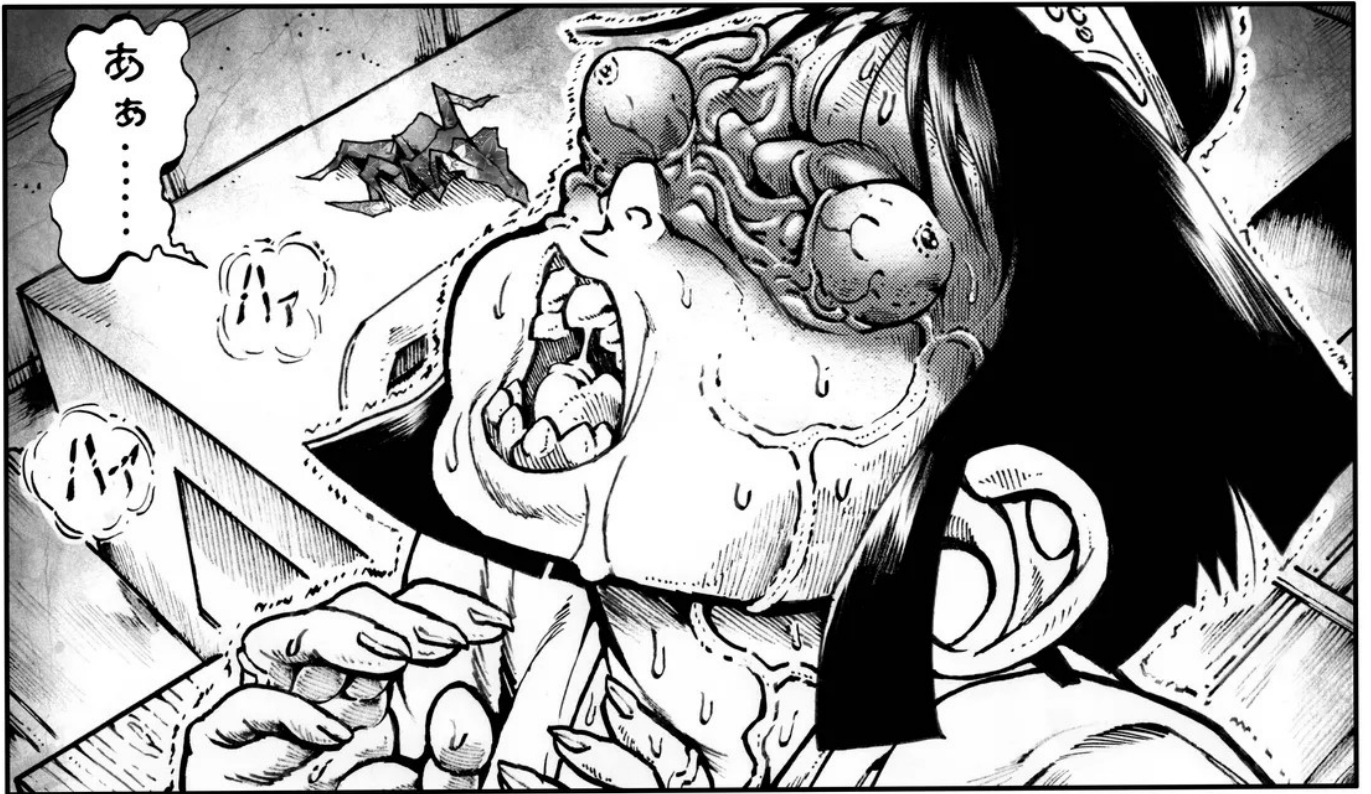
はあ

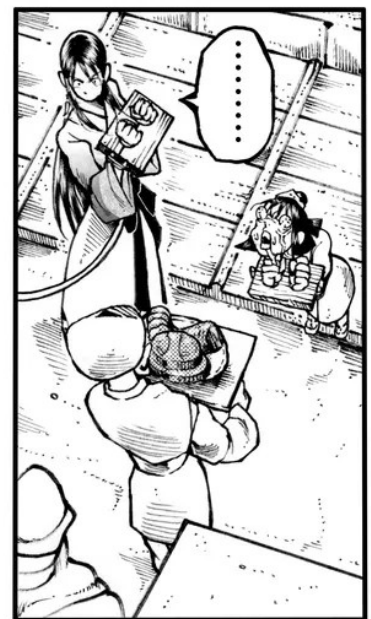
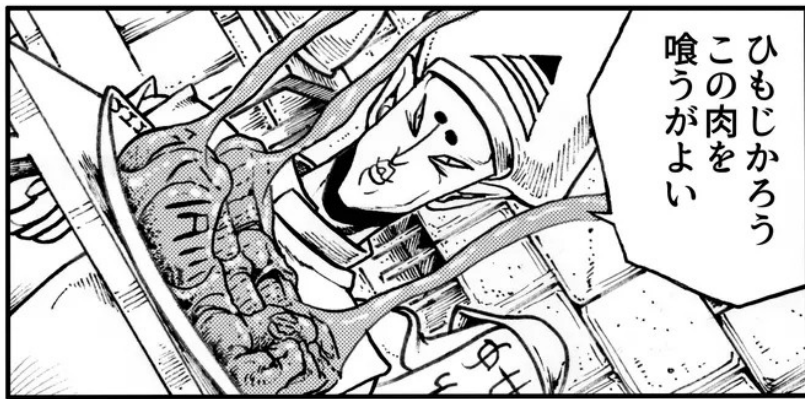
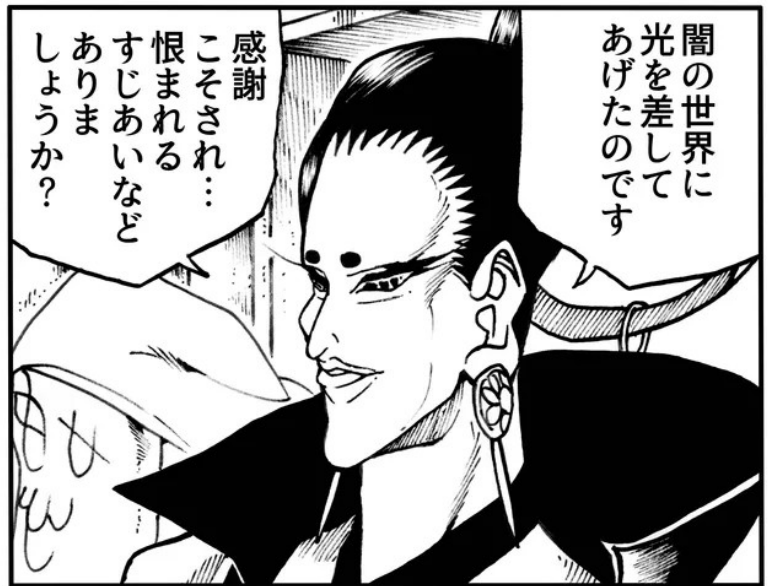
はあ

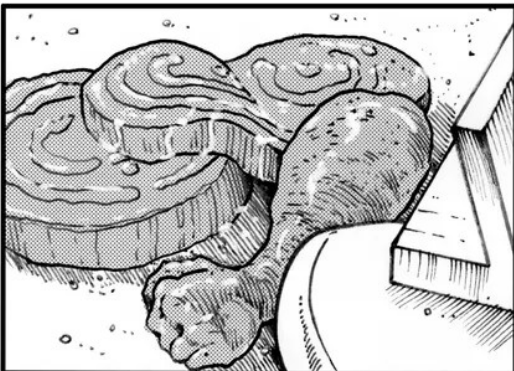
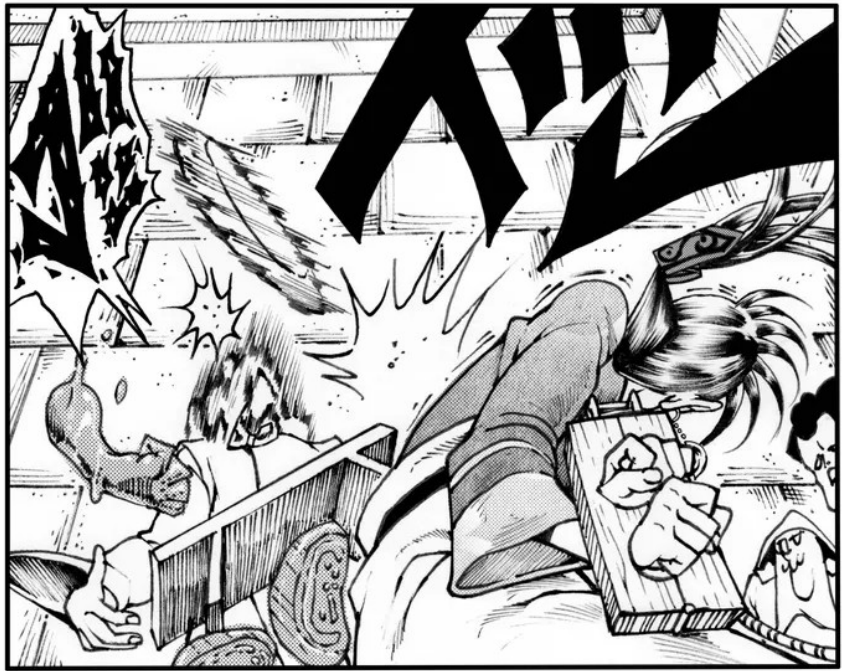


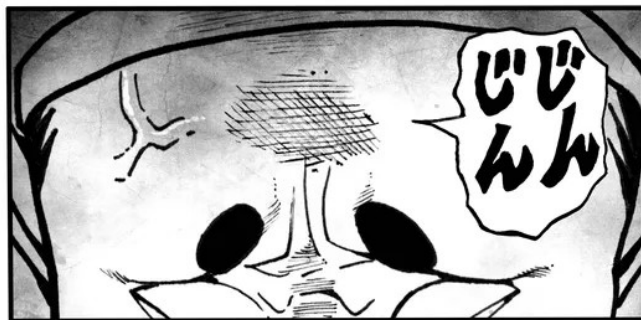


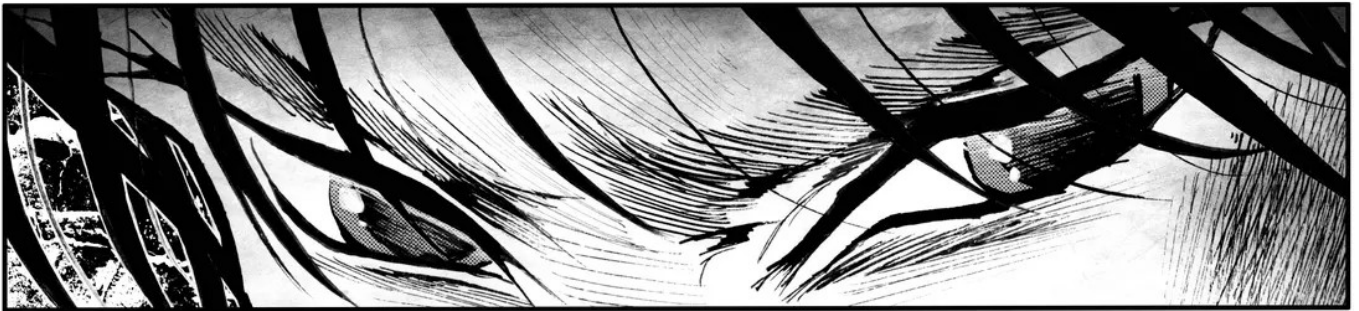
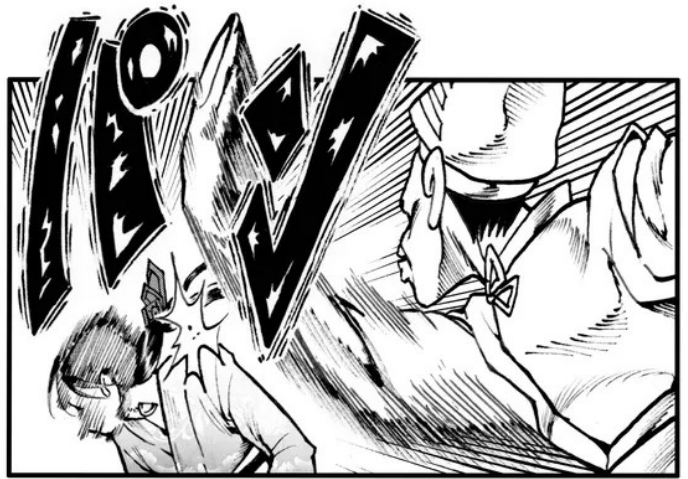


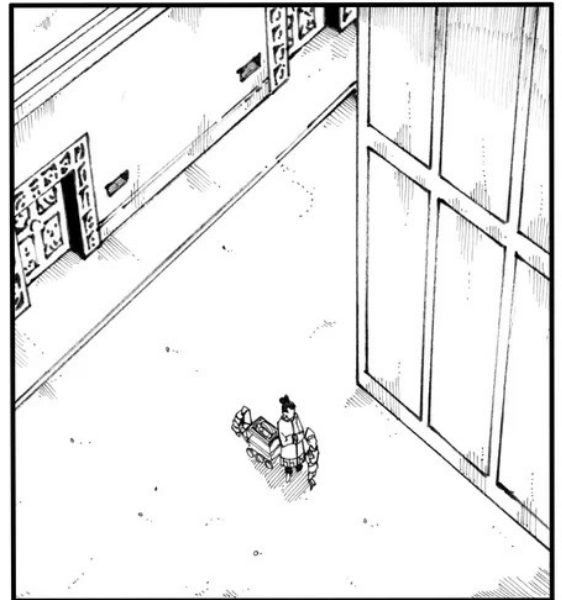


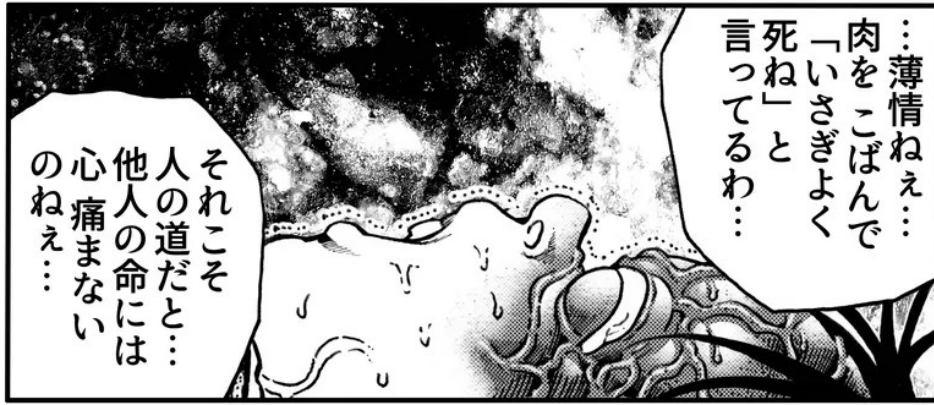






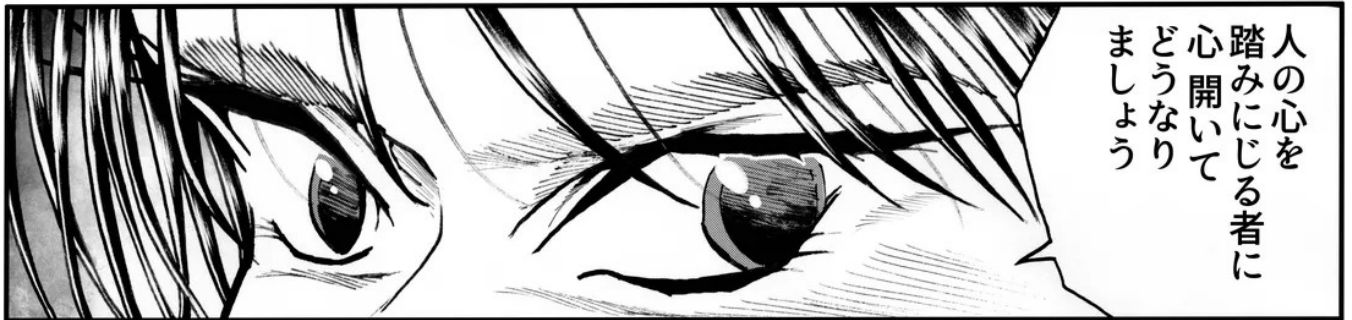






…薄情ねえ…
肉をこぼんで
「いさぎよく
死ね」と
言ってるわ…

それこそ
人の道だと…
他人の命には
心痛まない
のねえ…



人の心を
踏みこむ者に
心開いて
どうなり
ましょう



ムイ…
自分で
決めなさい

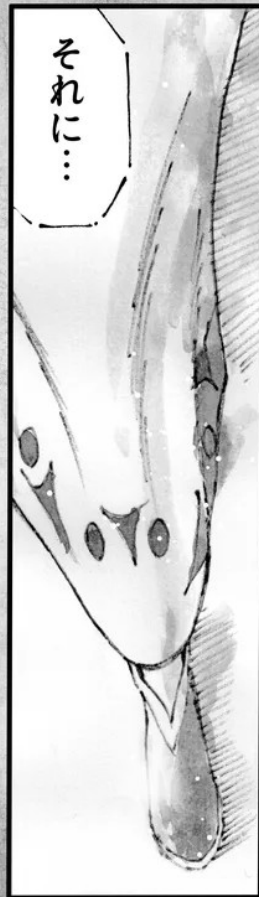
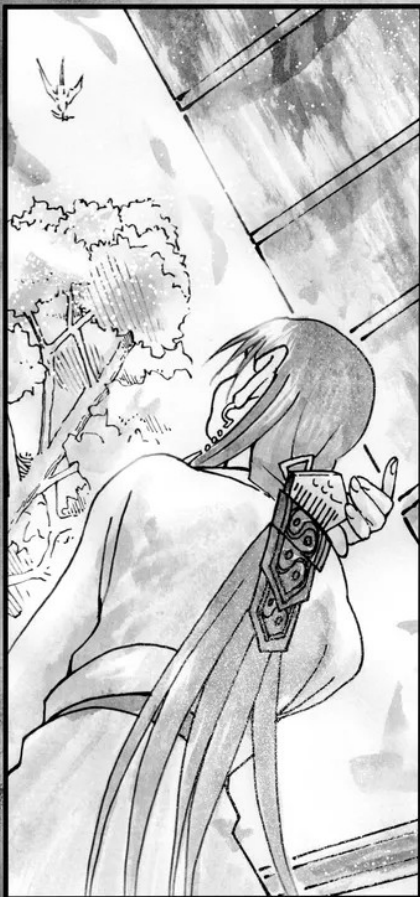


たべたい
でしょう？

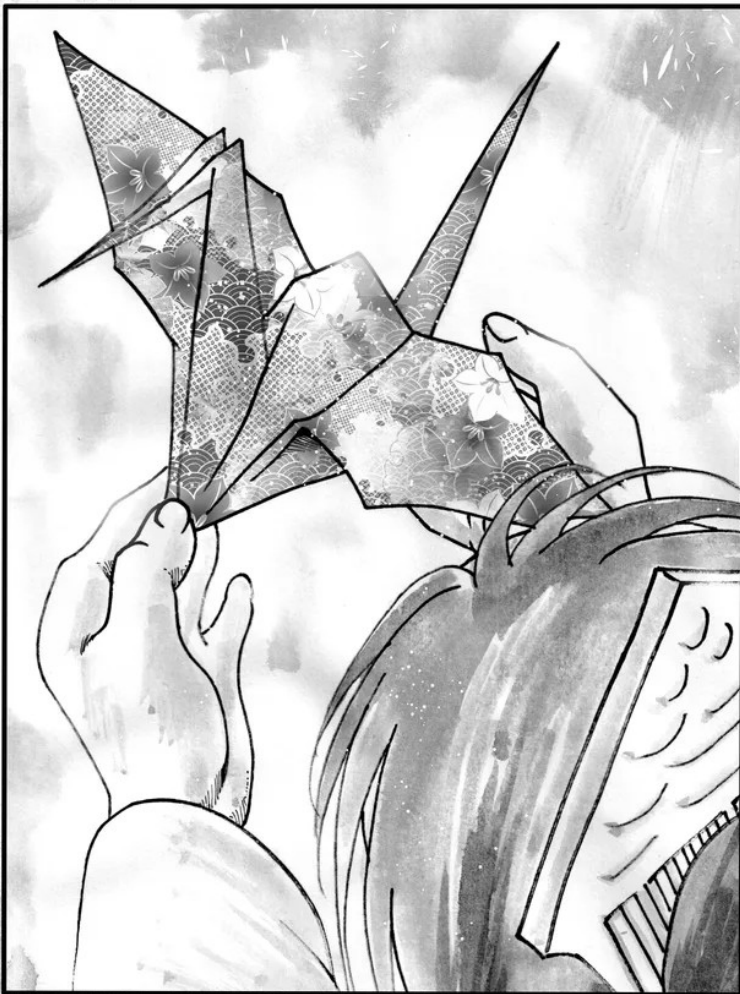
たべたい
だけ
たべて
いいのよお



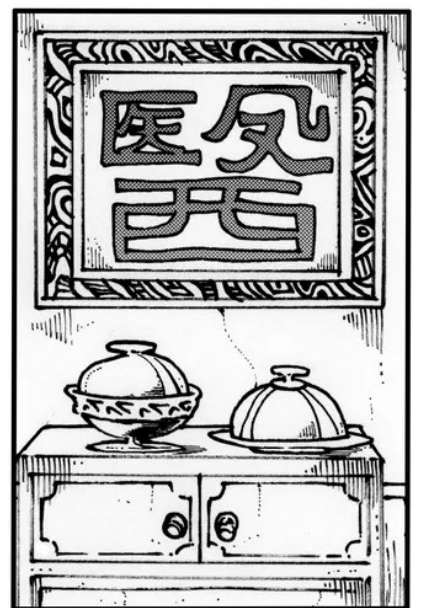
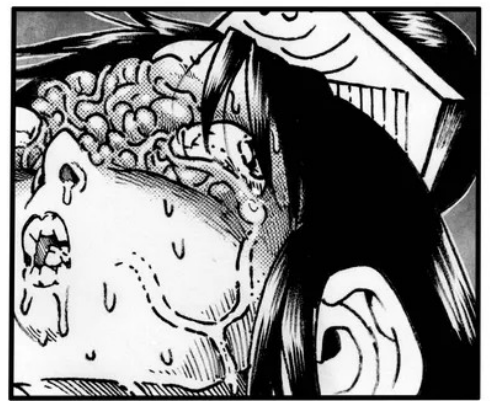




つくすべき
存在が
いることこそ
ひとの
しあわせでは
ないでしょうか？







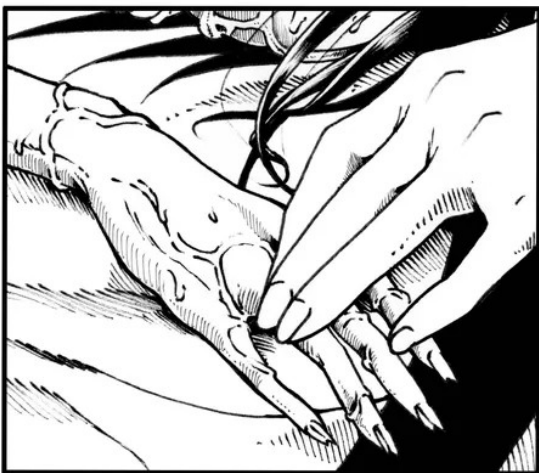


ならば
この棹芽さおめを
使ってみれば
ええ

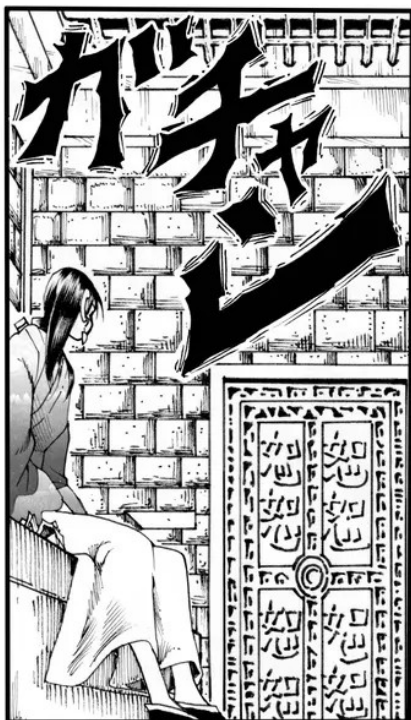
“ 本来の自分 ”
をとりもどした
者らの
生き血を吸って
どんどん
すばらしく
育つておる
ぞええ

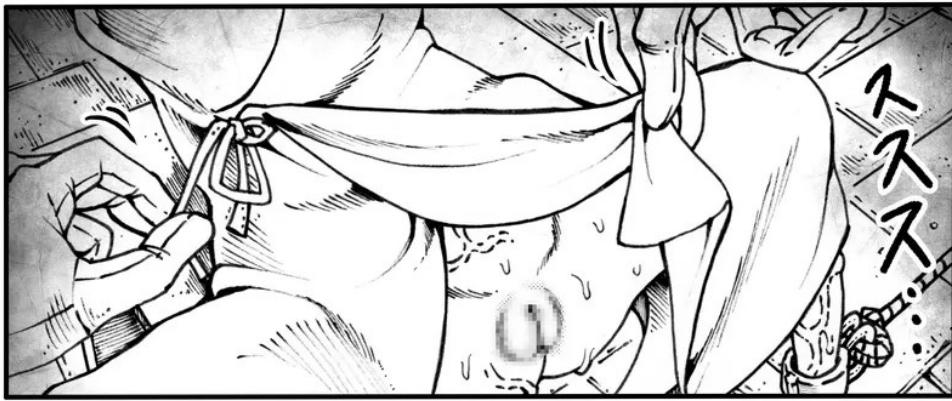


よまじごと
世迷言を退け
なにがまことか
身をもつて
知るであらう



……こんな
短い時間で
みるみる
細く……







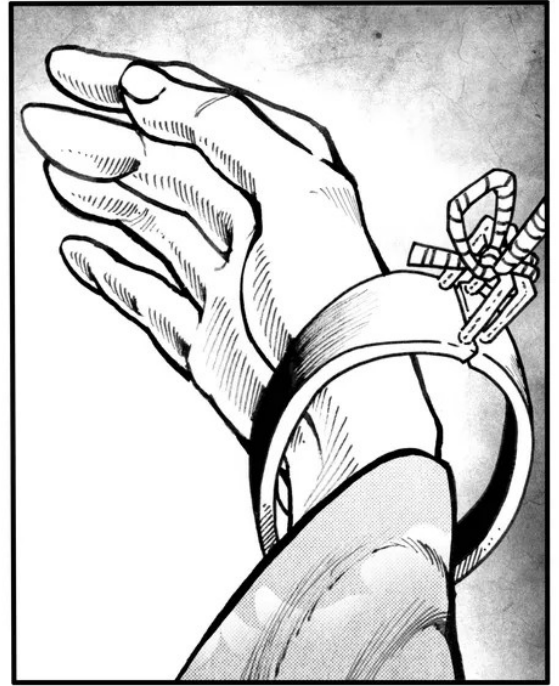
ほうら……

お肉を
くらい
なさい

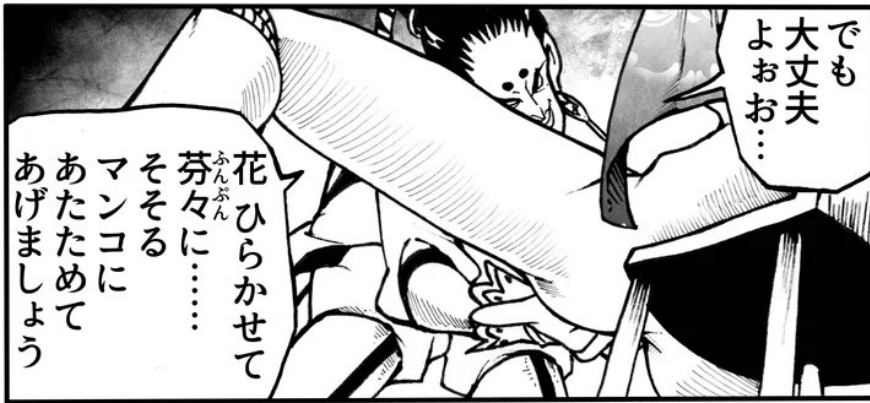


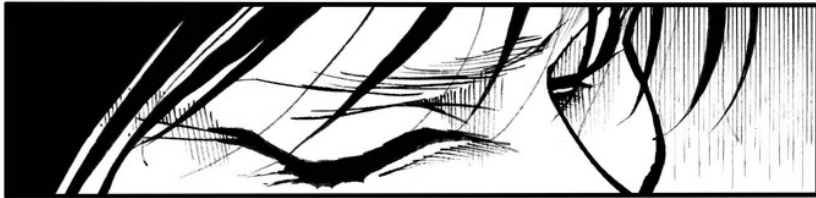


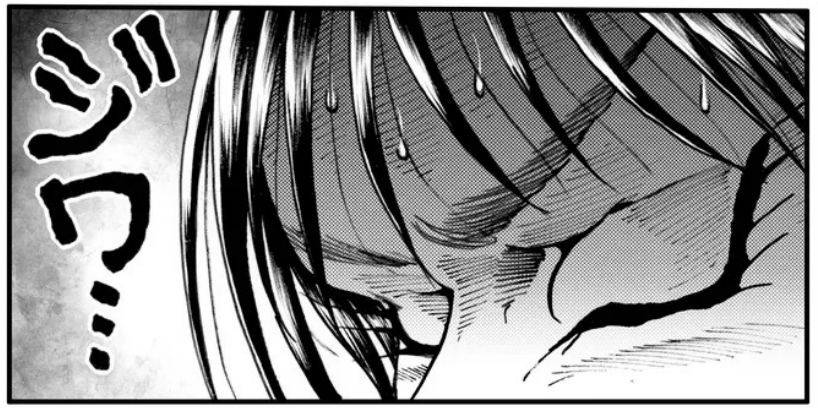


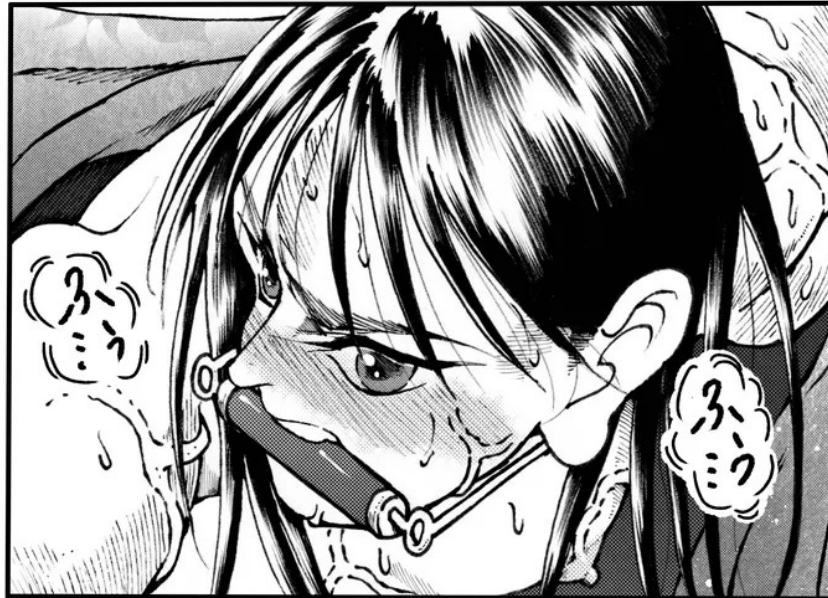


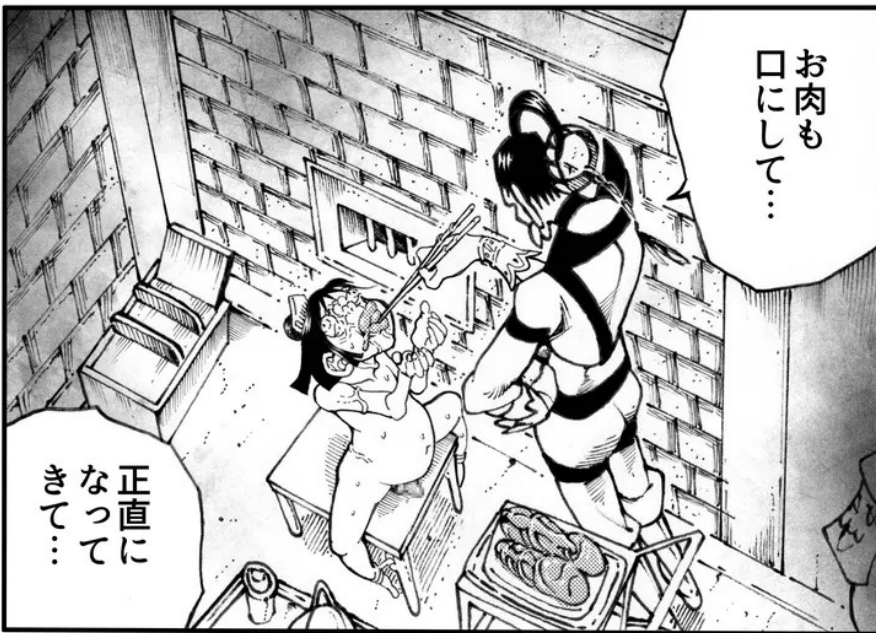


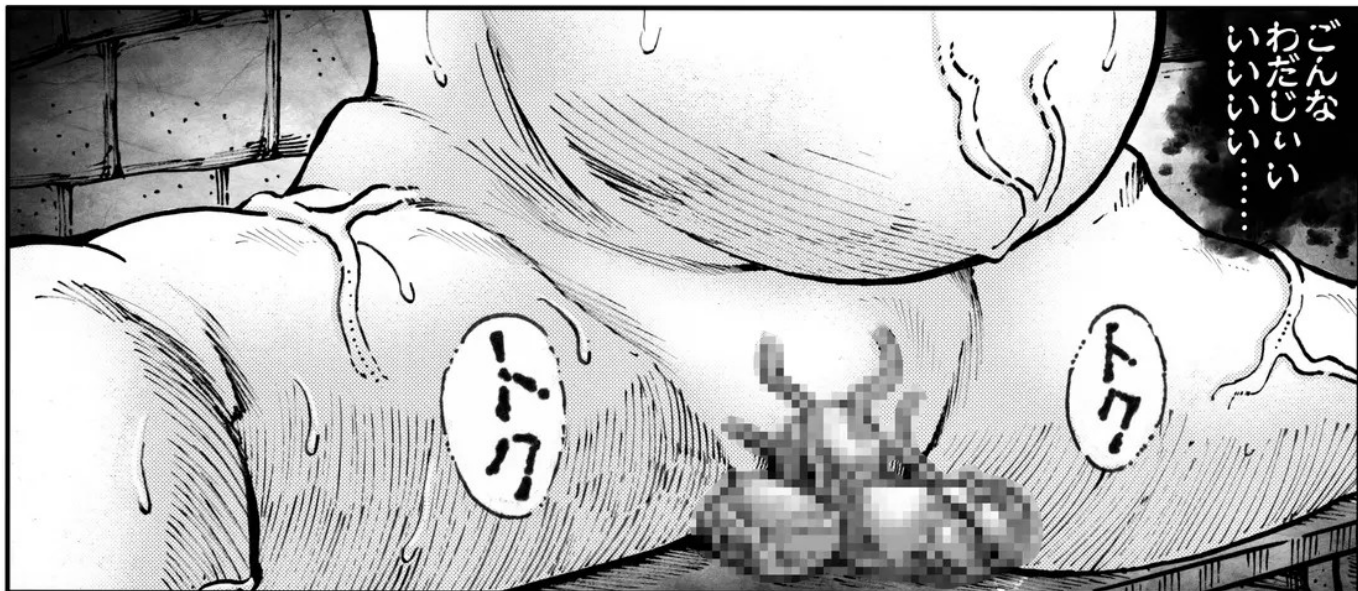












「ごんな
わだじい
いいいい……」



「なにか
我慢している
のおお？
これじゃあ
ちゃんとか
くつつかない
わよおおお」

「勃起させない
でえええ……」

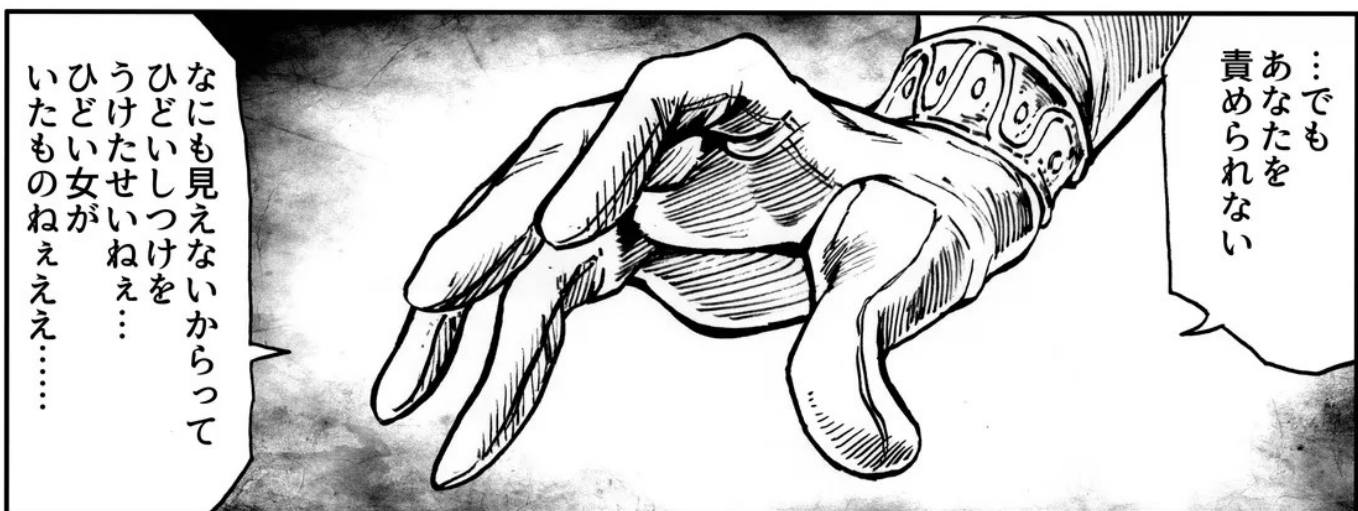


「でも……」



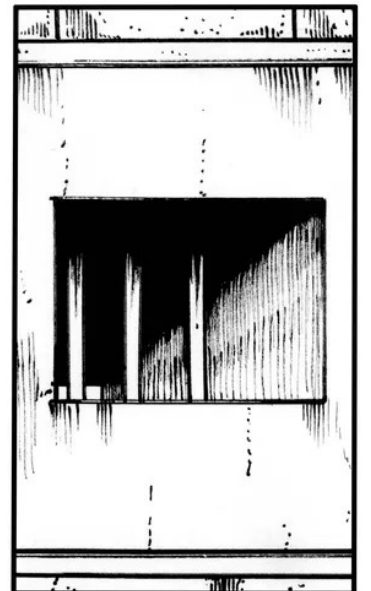
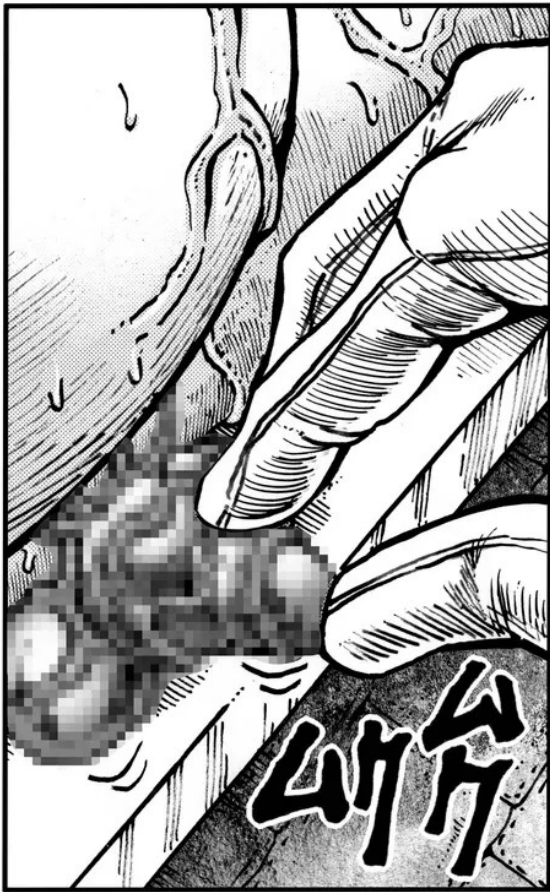
「なにも
知らないくせに
これがよくない
あれがよくない
などと……」

「それは不当な
差別に
まちがいない
でしょう……」



「……でも
あなたを
責められない」

「なにも見えないからって
ひどいしつけを
うけたせいねえ……
ひどい女が
いたものねえええ……」





もうこんな
淫乱な子
はじめて
だわあああ

…さわった
そばから
腰を
くねらせてえ

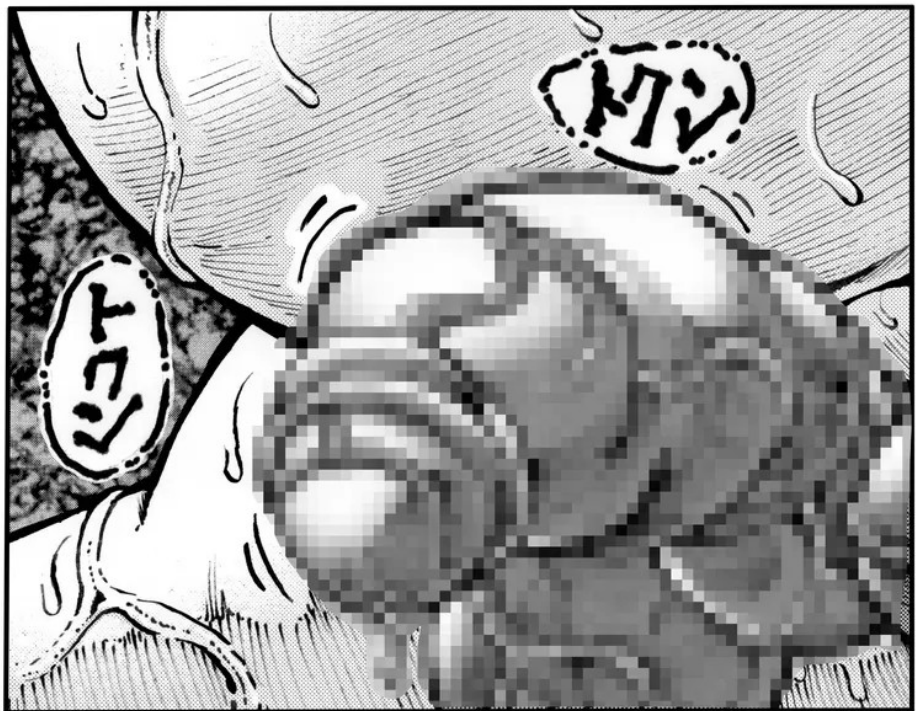
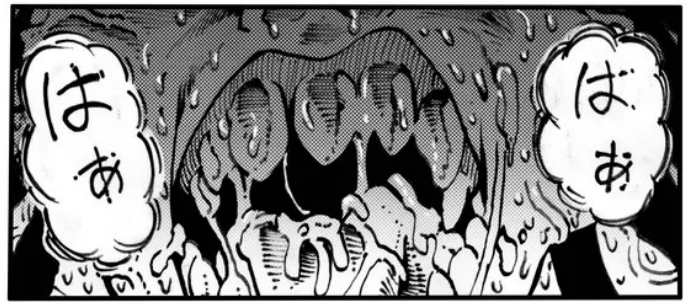
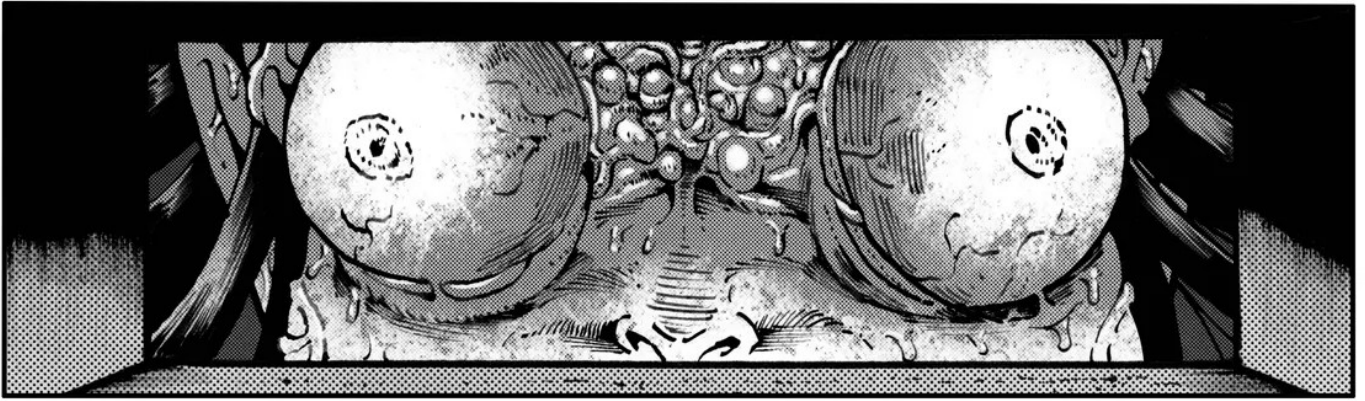
こんな
濡れそぼってえ

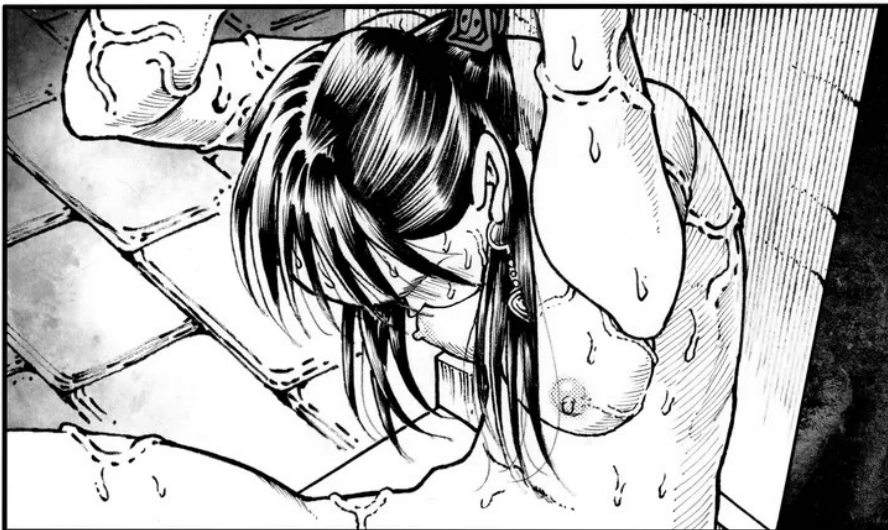
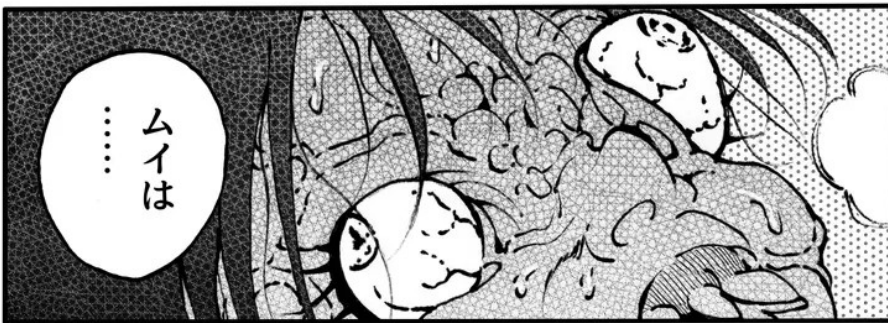
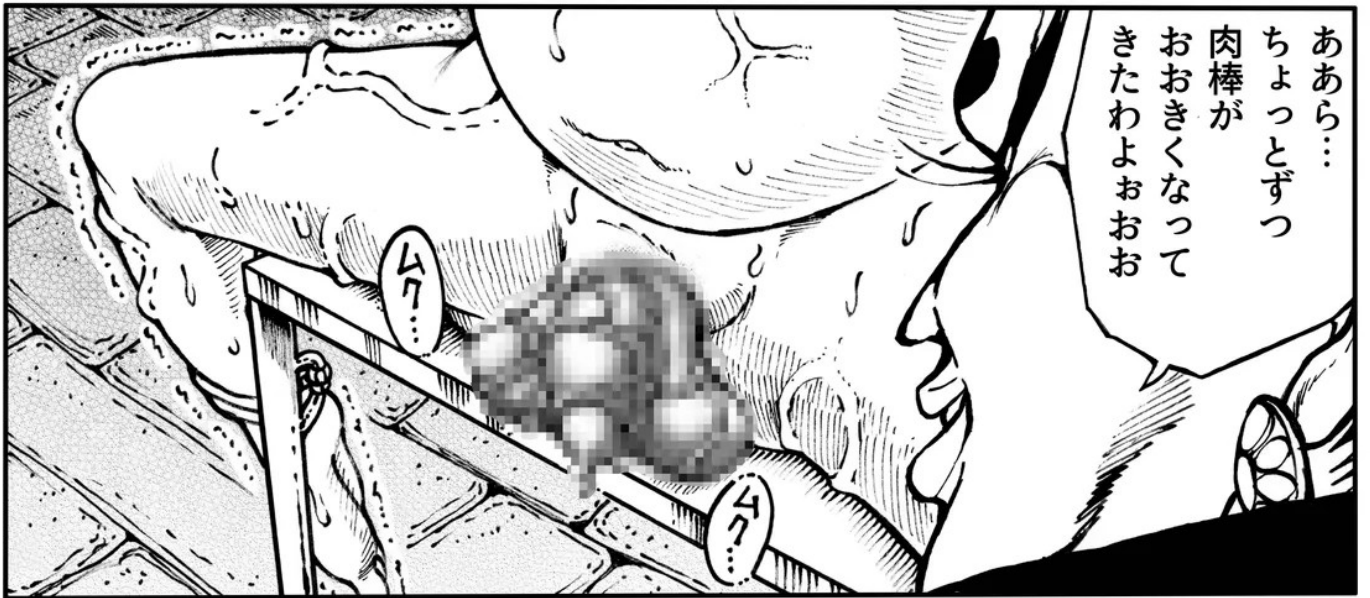
カッ
キュ
キュ

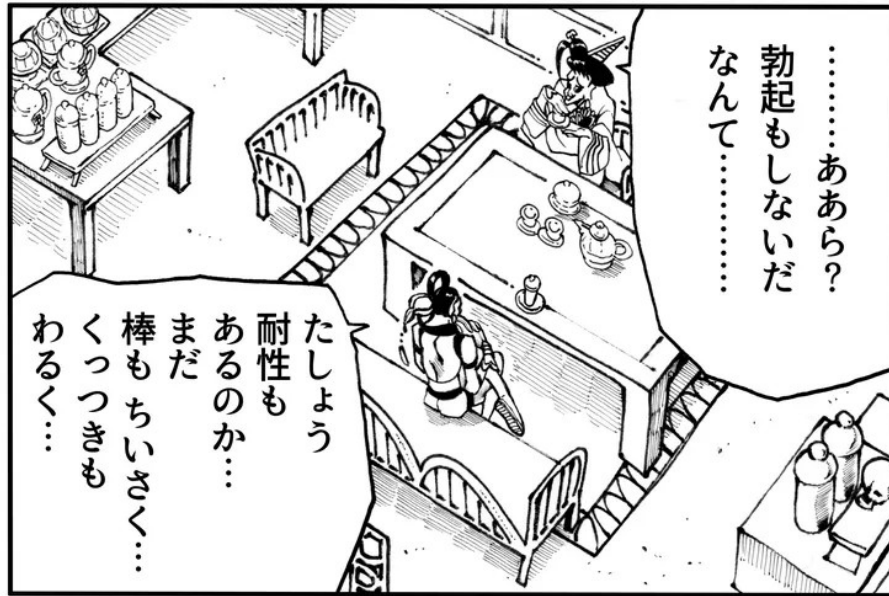


ちっちゃい
肉実だつて
包皮からむけて
もうピンコ勃ち
じやなあああい

カッ

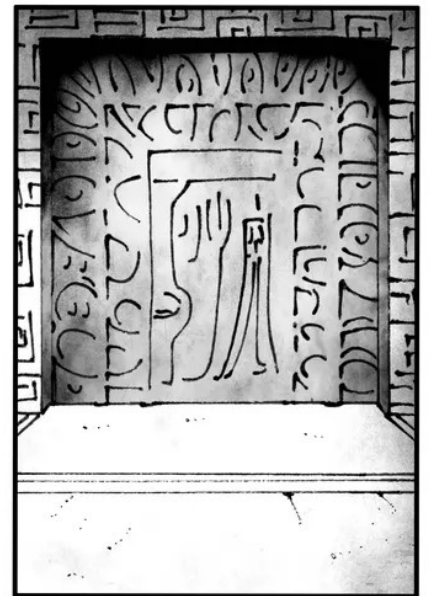






……ああら？
勃起もしないだ
なんて……

たしよう
耐性も
あるのか…
まだ
棒もちいさく…
くつつきも
わるく…



それでも
むりやりでも
勃起させれば
ちゃんと
くつつく
でしようよ

でしよう
が……



ほう
…？



しかし…いっそ…
もつと……

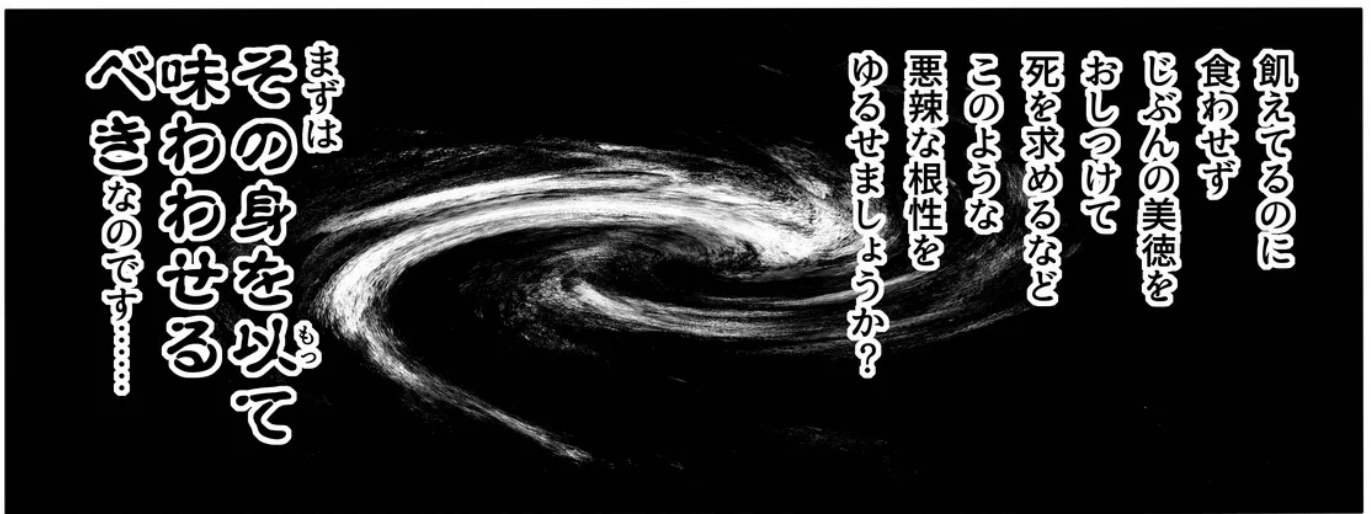
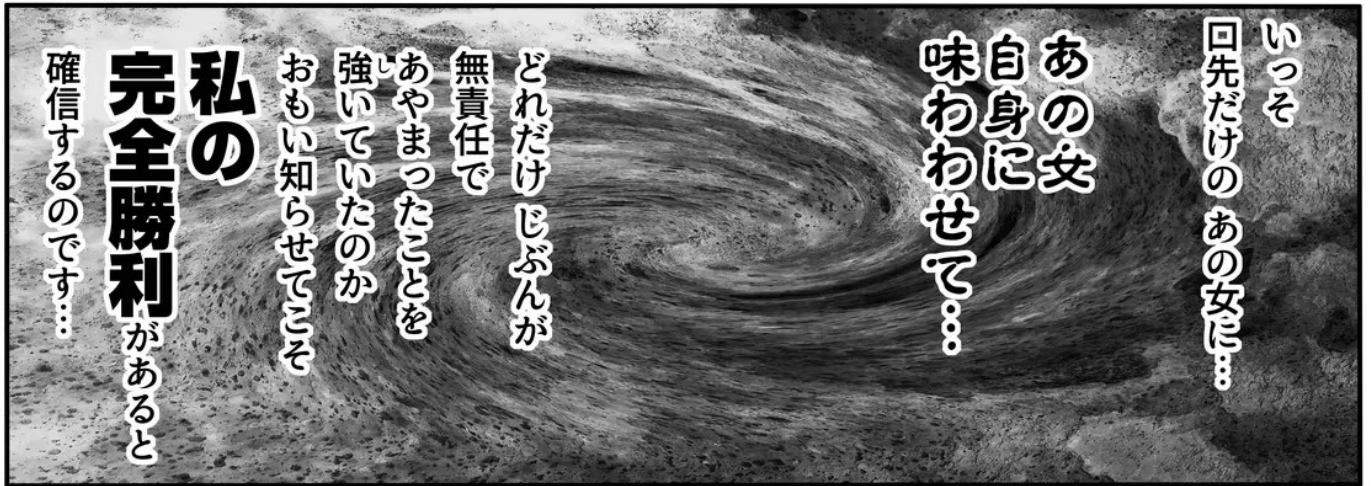
ツンタン……
あの者の
誤った考えを
へし折って
あげたく存じます

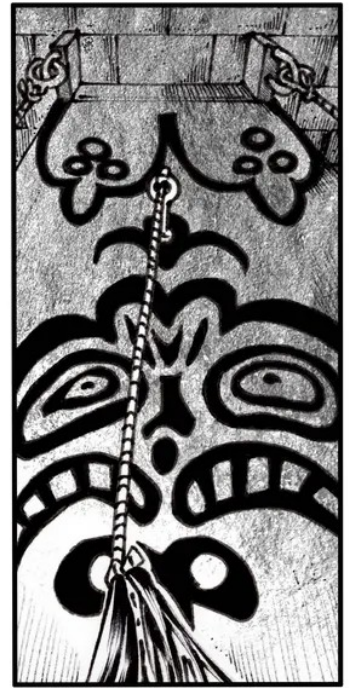
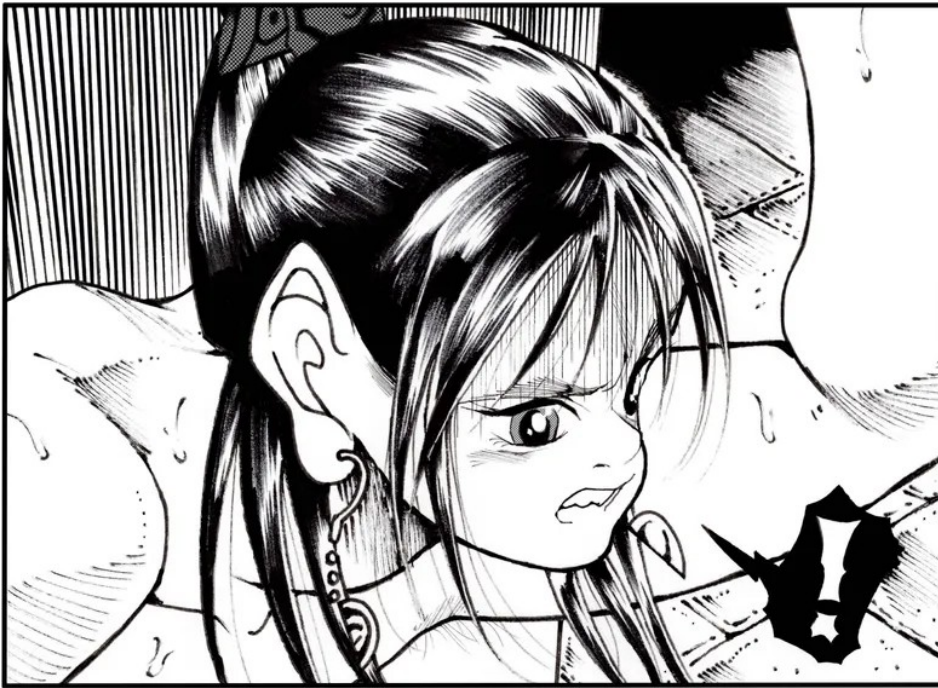


手ぬるさは
あなど
侮られるだけ
もう「汁」でも
打ちましようか？



それも
よいで
しょうが…
……
こつち
持ちだるが
ババア…







欠けてるものをおぎなうだけでは
真しんの人生は
とり戻せない…

だから
ムイちゃんに
しじょう
至上の幸福
をさしあげた
のです……

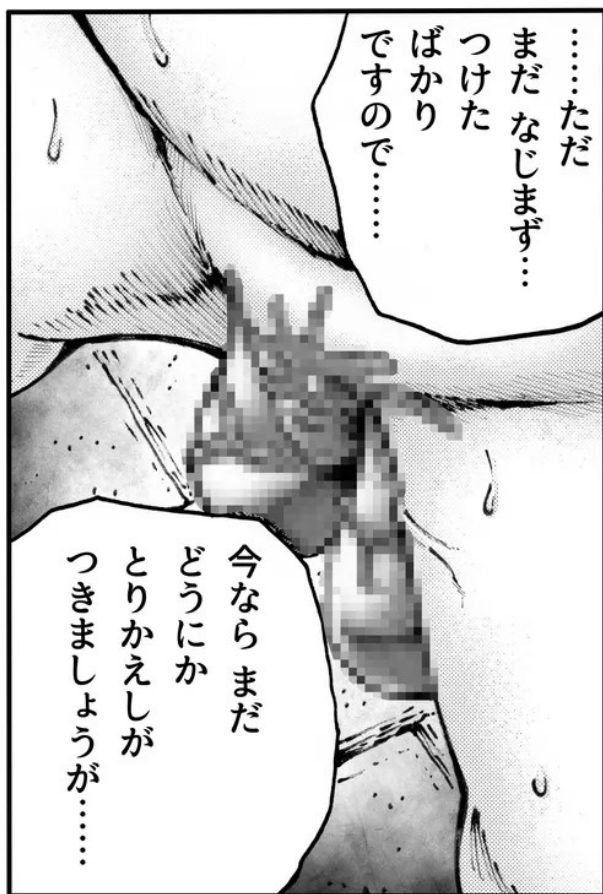


…こんなものが
幸福ですって？

人を
このような姿に
いたらしめて
これが
幸福ですって…!!

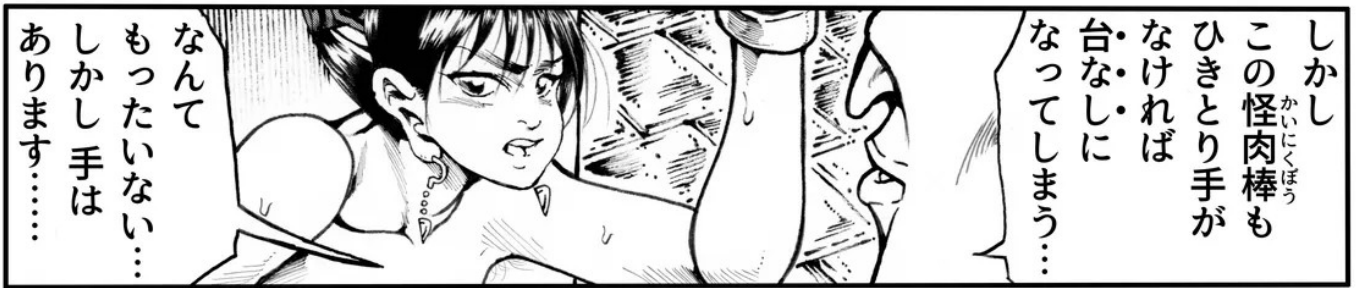


人は
人以上を
望むのですよ



……ただ
まだなじまず…
つけた
ばかり
ですので……

今ならまだ
どうかにか
とりかえしが
つきましようが……



しかし
この怪肉棒かいにくぼうも
ひきとり手が
なければ
台なしに
なってしまう…

なんて
もったいない…
しかし手は
あります…



かわりに
だれかが
ひき受けて
くれれば…



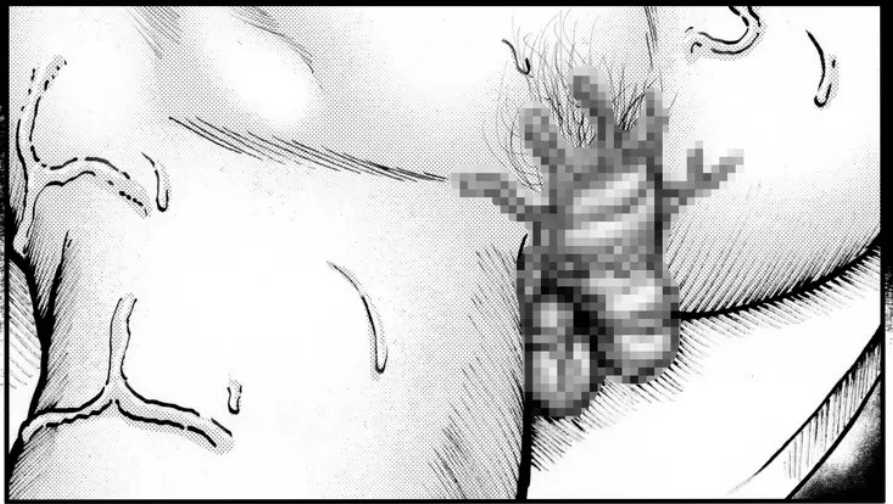
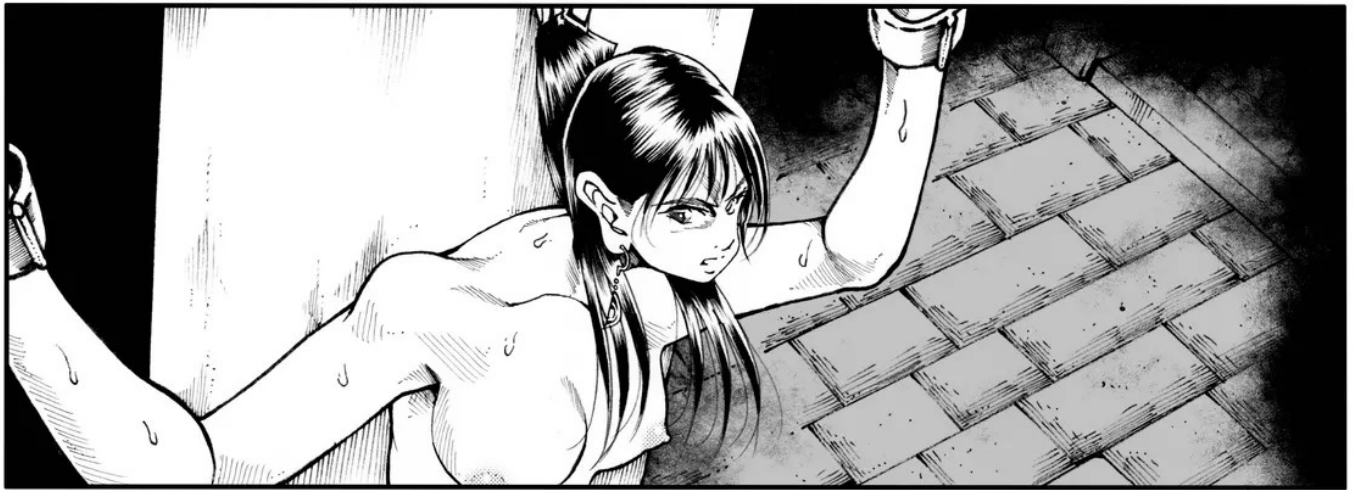
アナタが
この怪肉棒かいにくぼうの
宿主しゆくしゆになって
くれるという
のであれば…

人にはガマンを
させて自分は
無縁で
ありたいと？

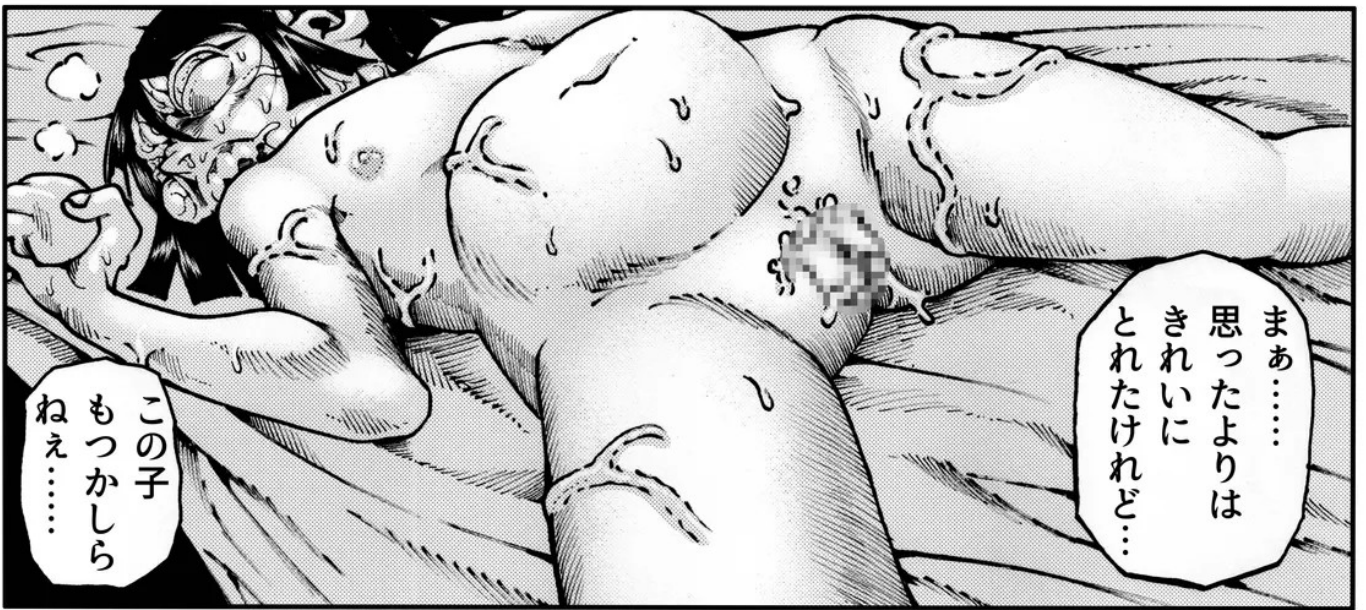
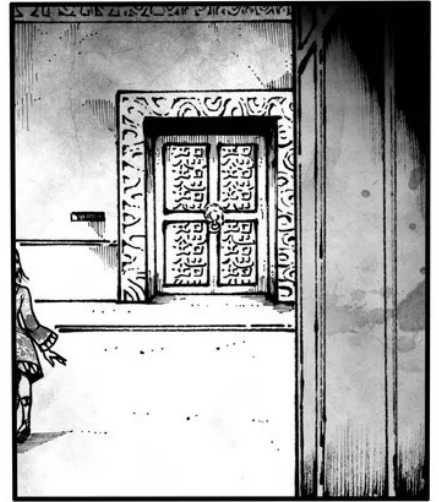


すっかり
怪肉棒さえ
あずかって
もらえれば院に
戻ってもいいわ

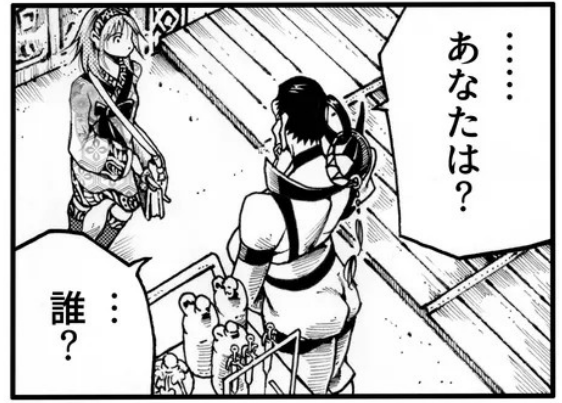
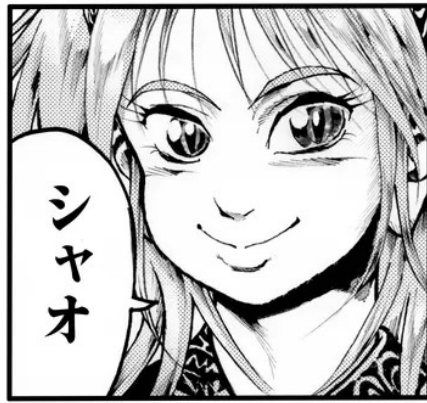
あとは
アナタの意思の
問題だけれども
………

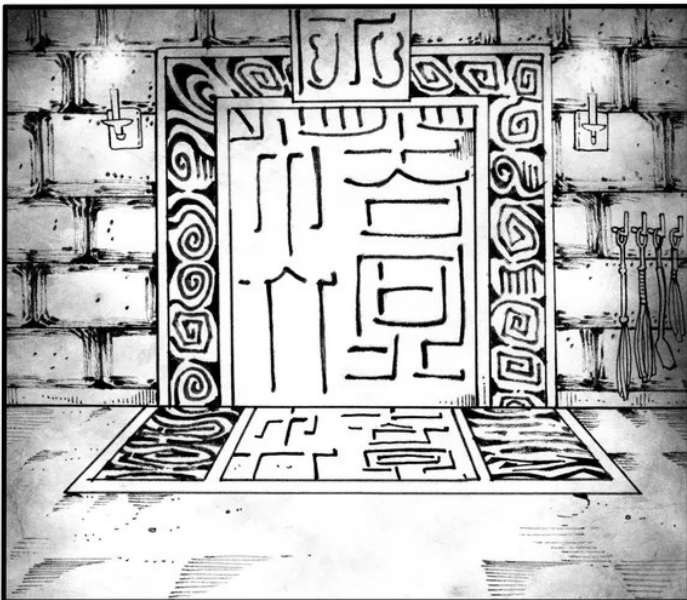
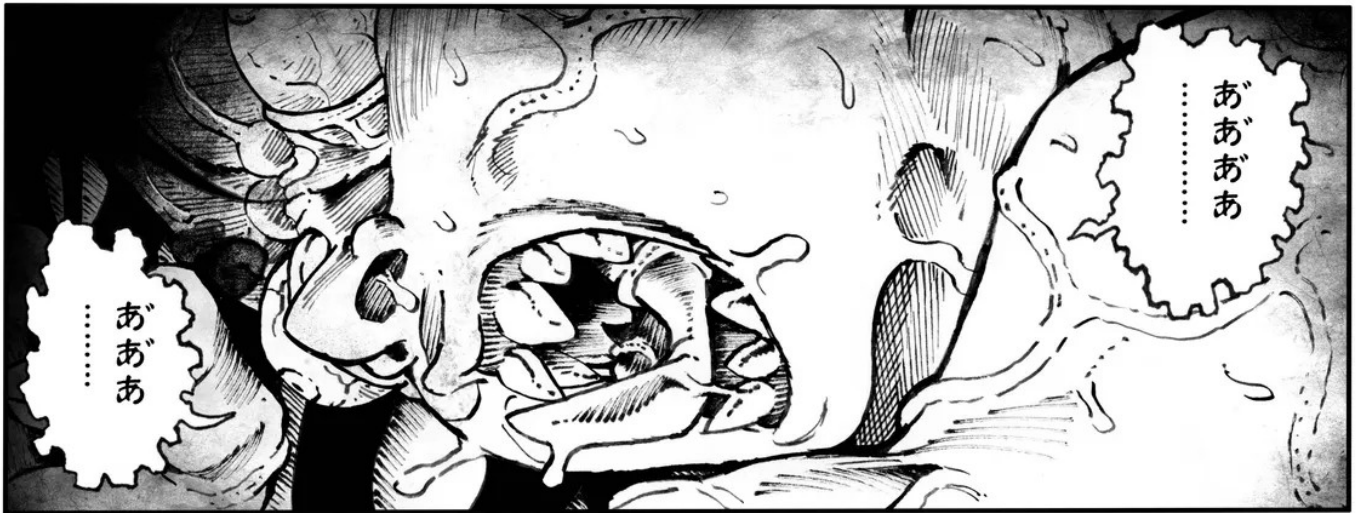
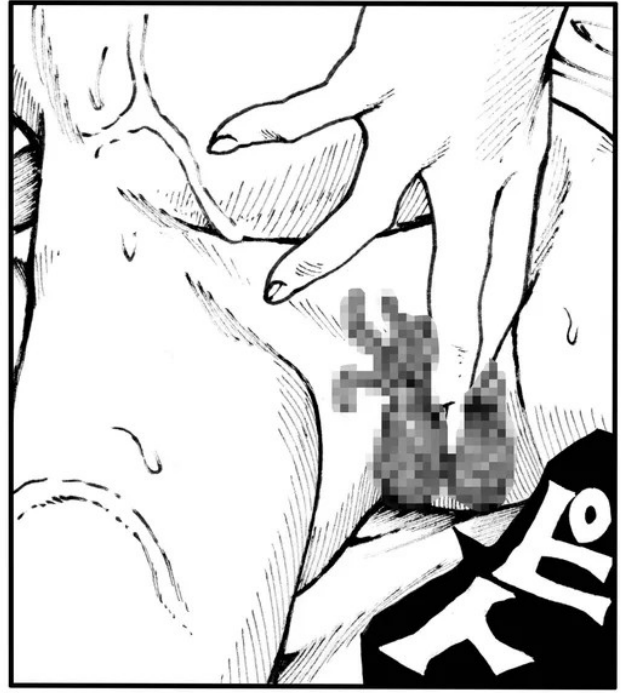
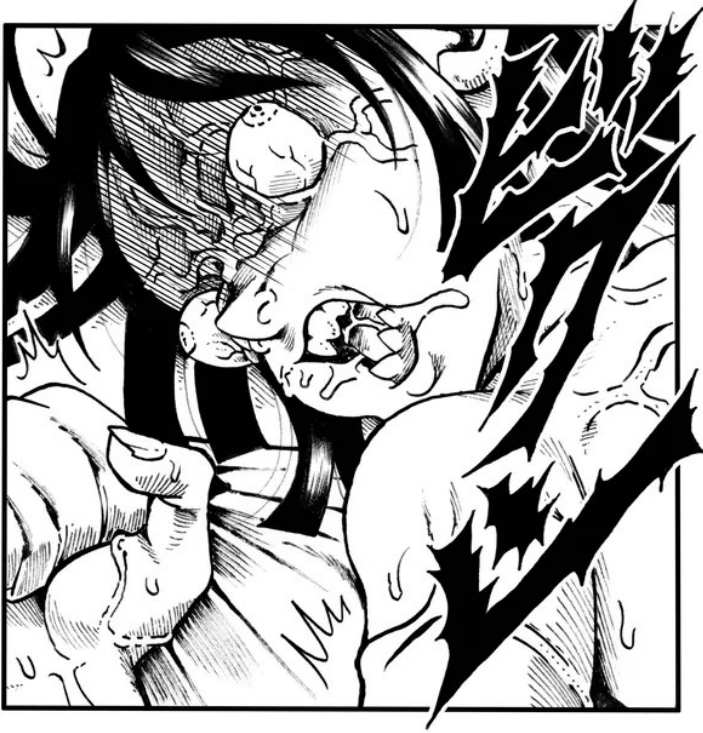


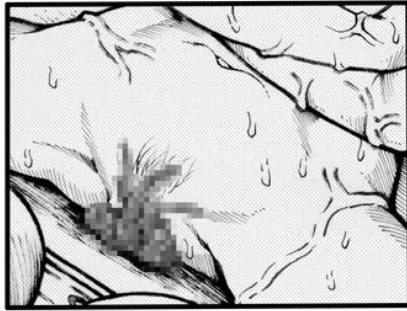
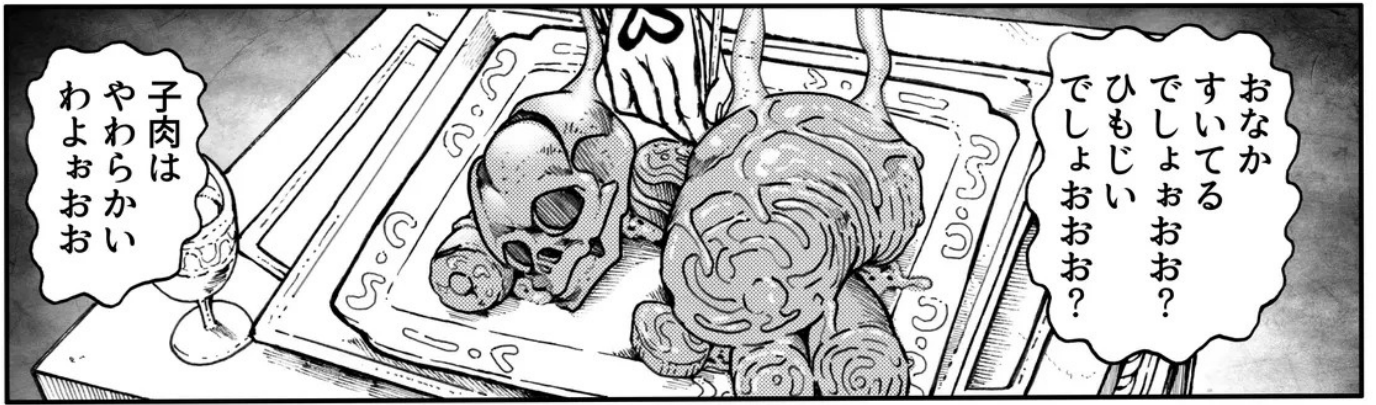




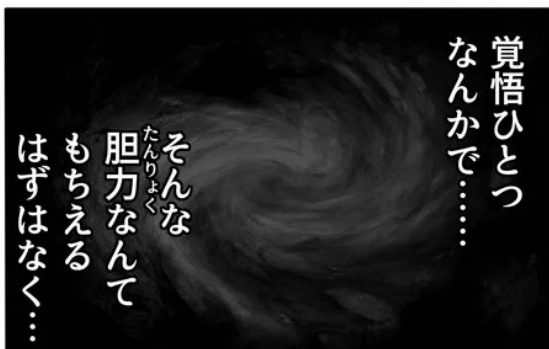




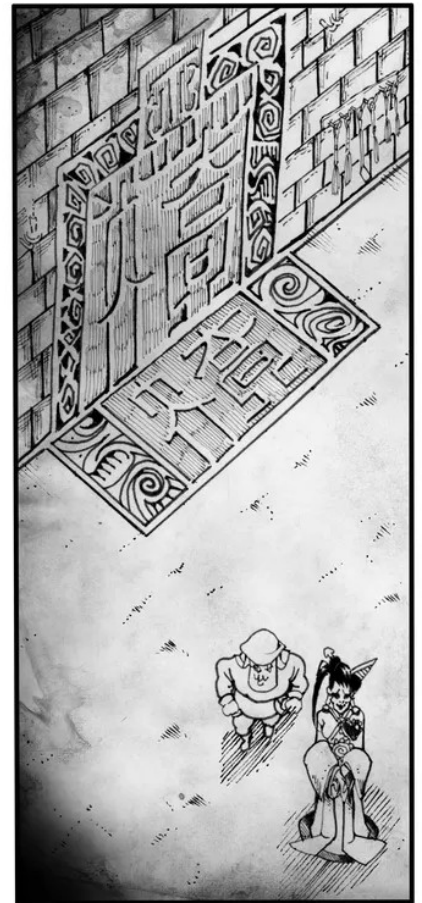
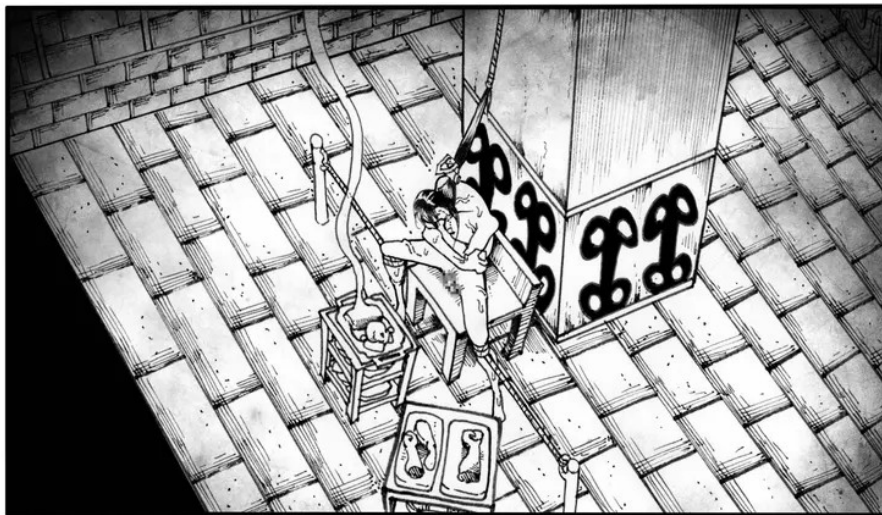
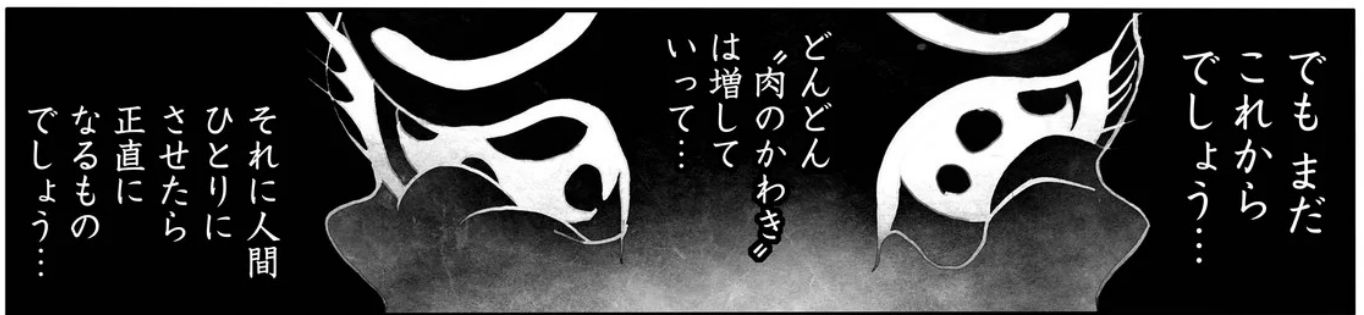


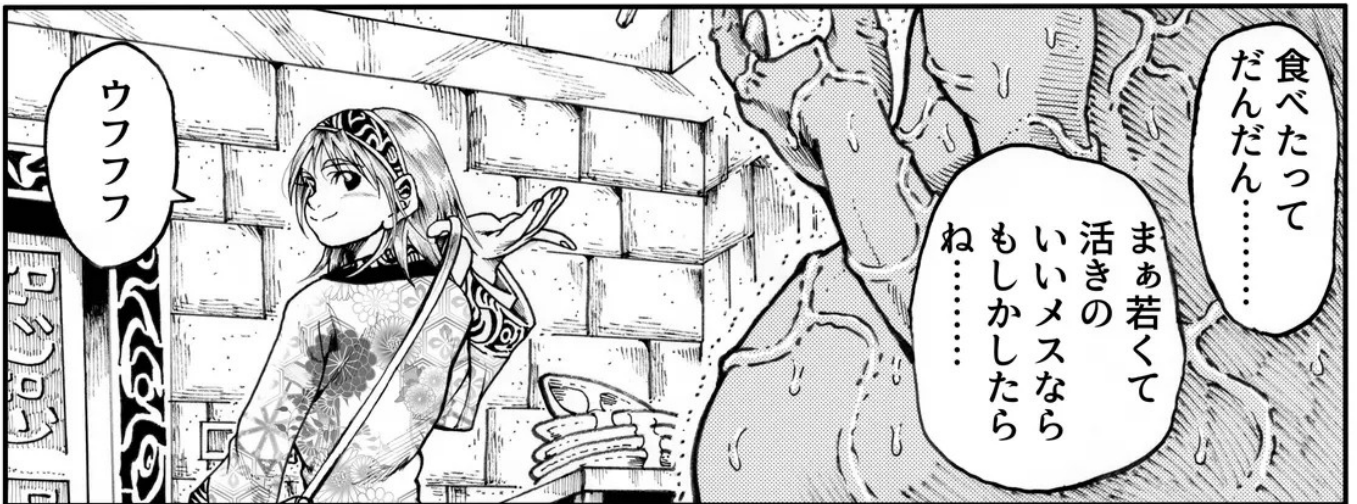
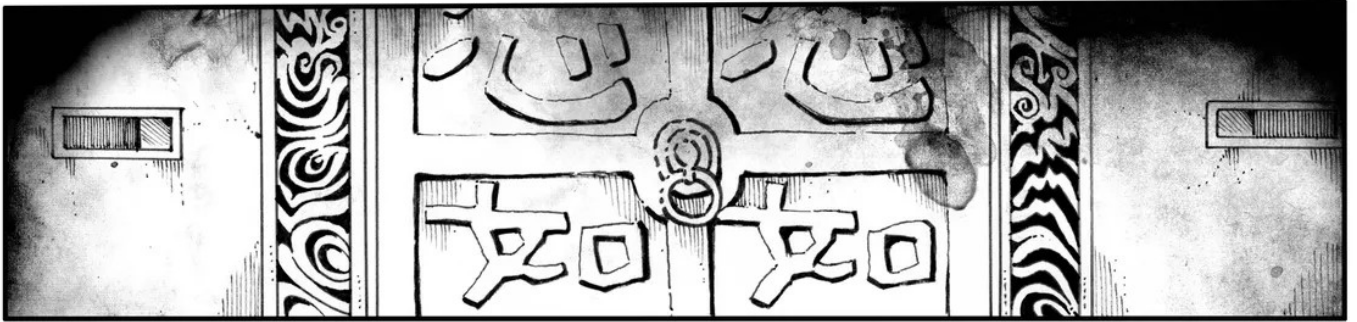
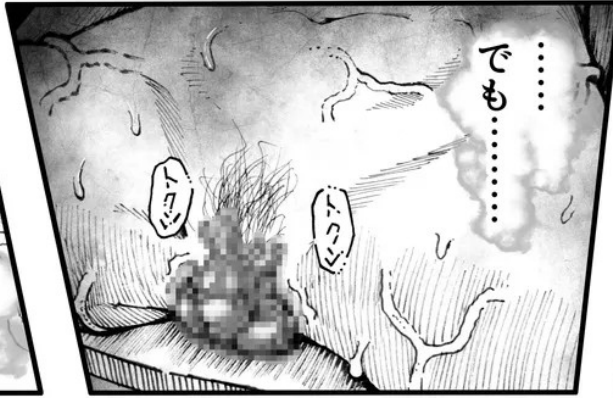


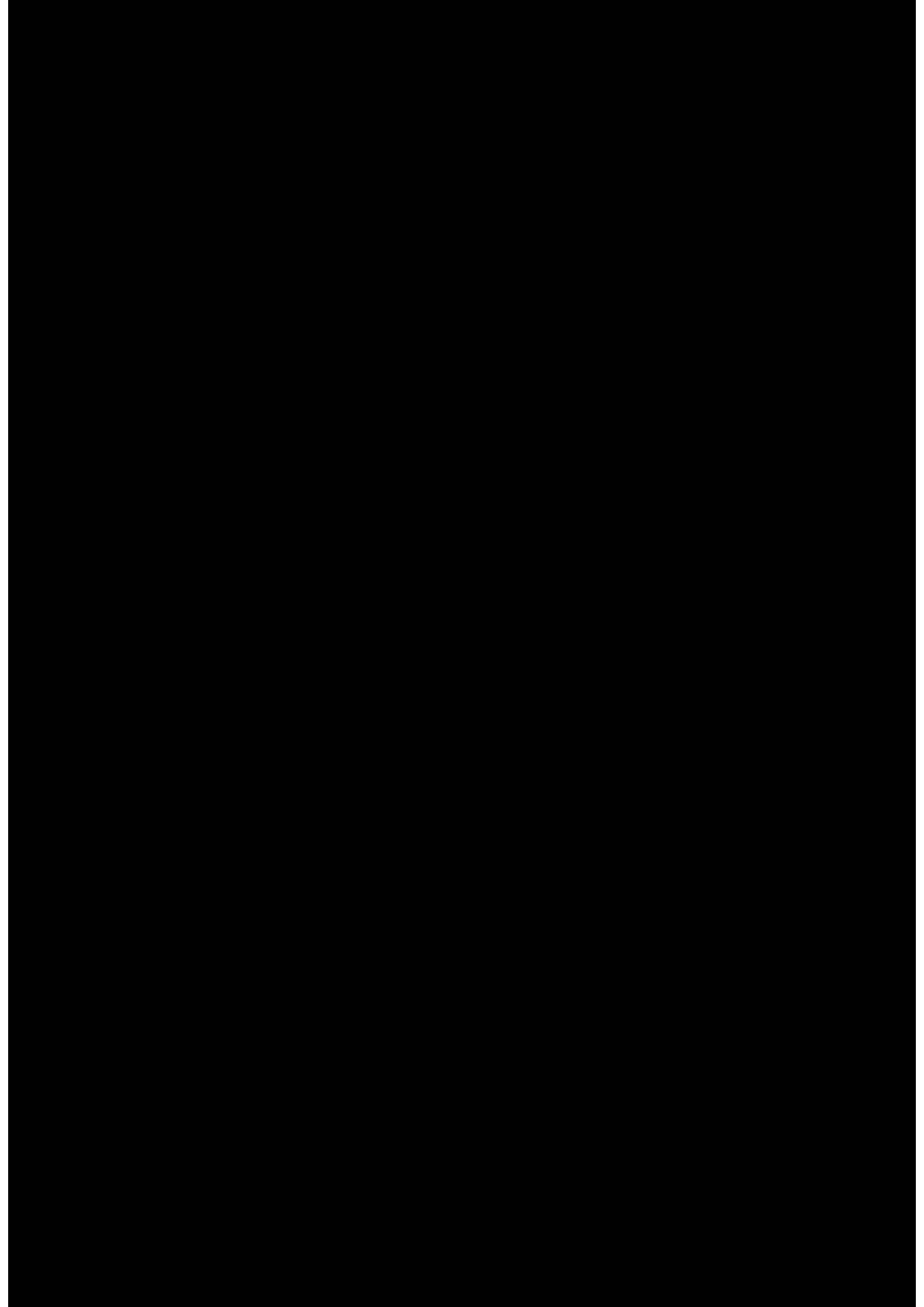
そう…
そうね…
そういう
こと
でしょう
……

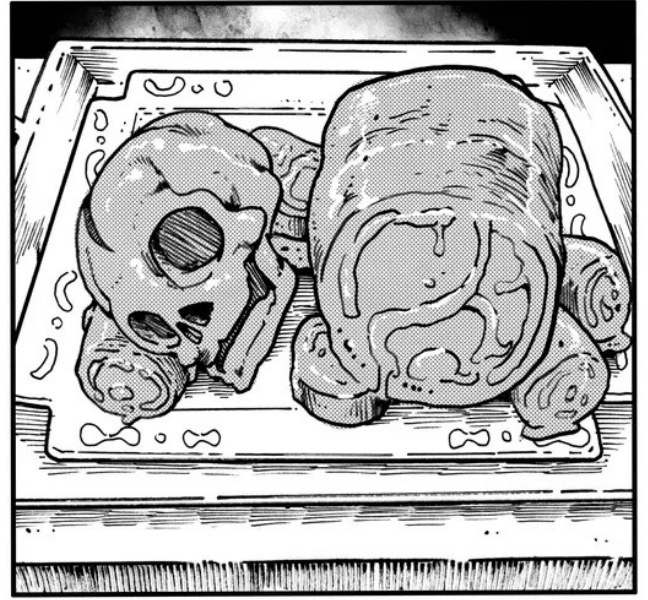
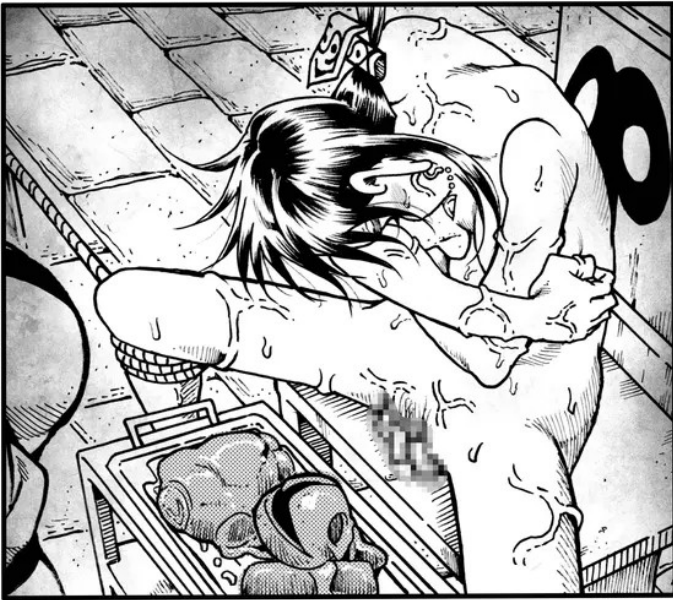


そんな たんりよく 胆力なんて もちえる はずはなく……











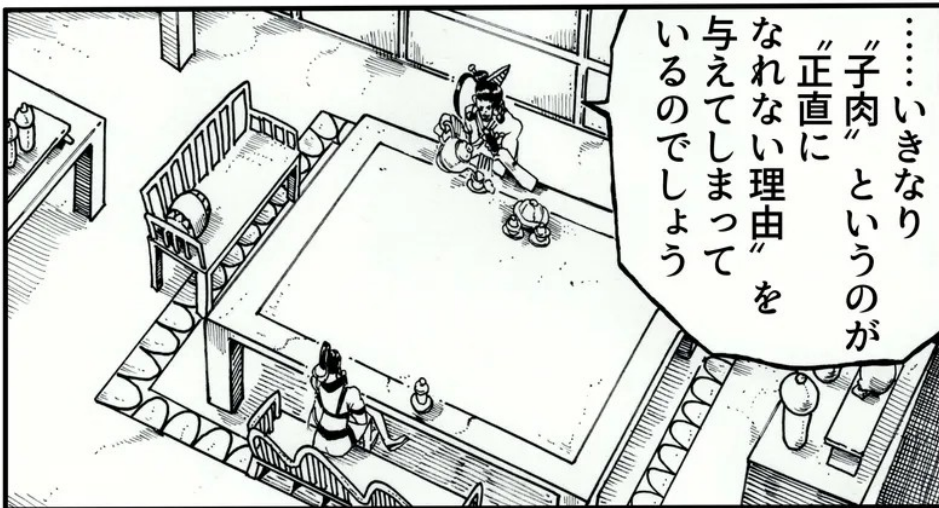
その先っぽから
透明な汁が
垂れていたことを
ねえええ……



この子から
生えている
チンコは
たしかに
脈打ち……



この子の肉実さねと
変態チンポ虫は
確実に馴染んで
いってるわあ……



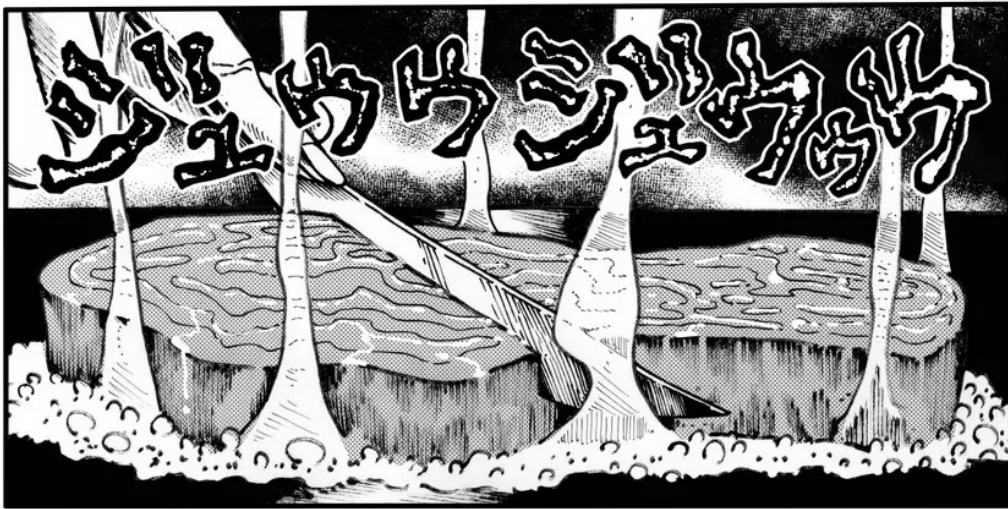
……いきなり
“子肉”というのが
正直に
なれない理由”を
与えてしまった
いるのでしよう



まずは純粹に
食欲をそそる
ところから
はじめましょう

それはがまん
ならないような
香ばしい匂いで
鼻腔をくすぐり

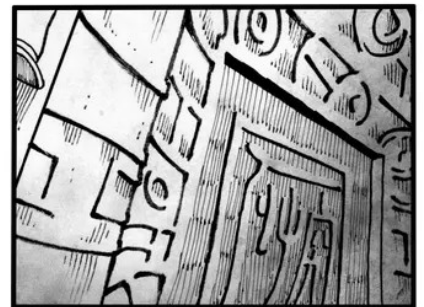
したたる脂を
目に焼きつけ
させて
彼女の欲を
育てましょう

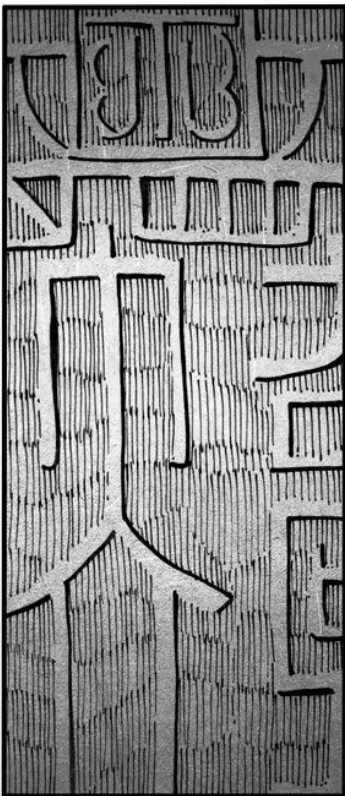
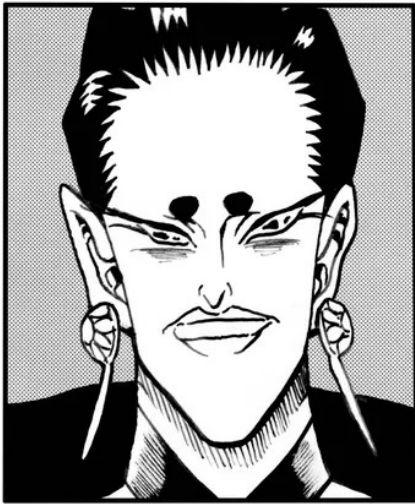


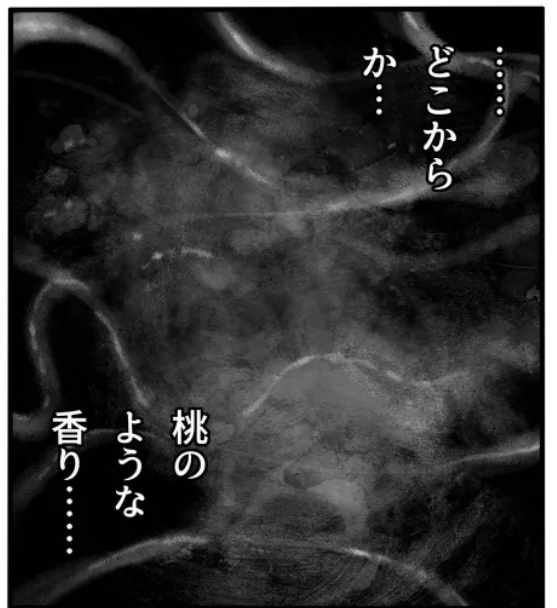
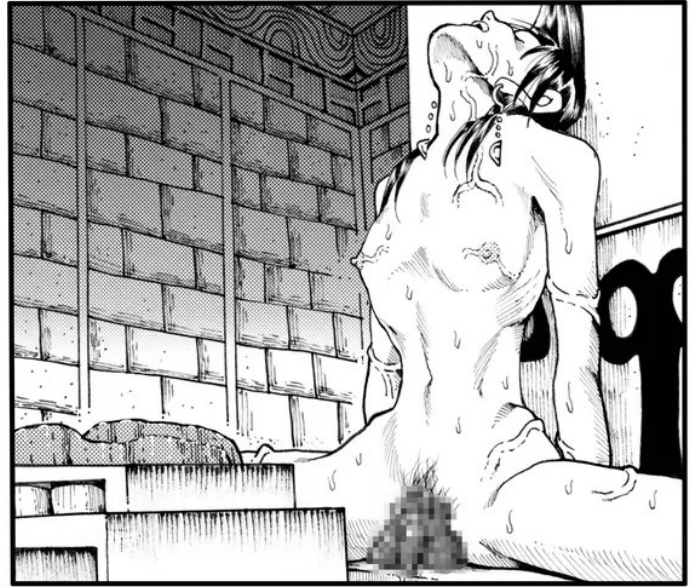
ほらほら

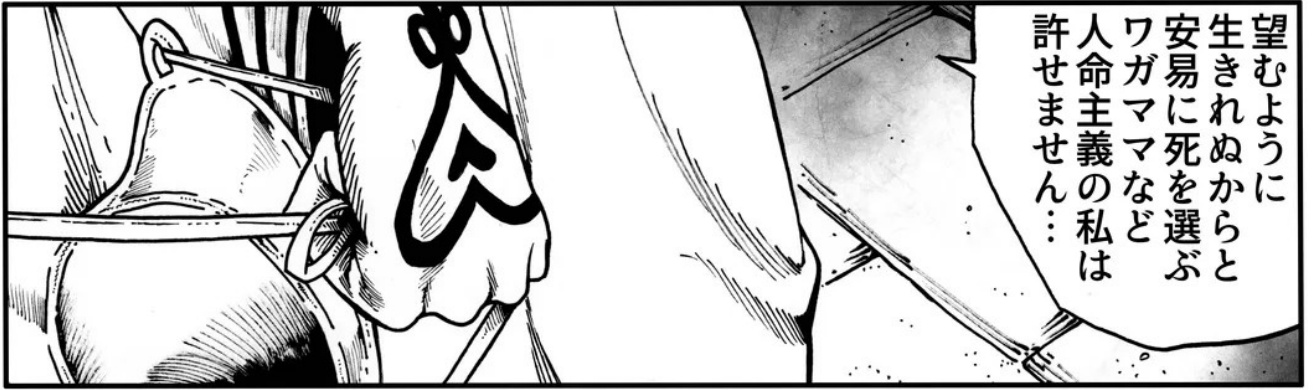
いい匂い
でしょおお

おいしそう
でしょおお









望むように
生きれぬからと
安易に死を選ぶ
ワガママなど
人命主義の私は
許せません…

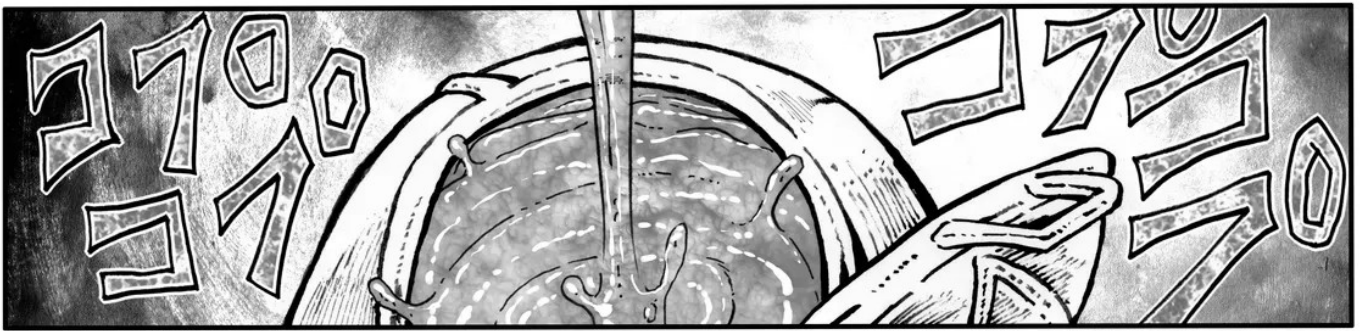


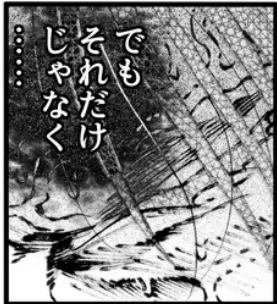
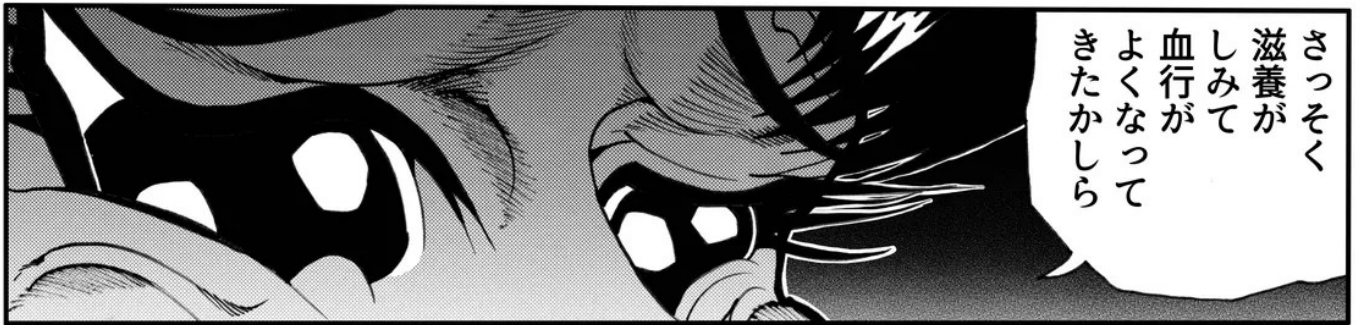
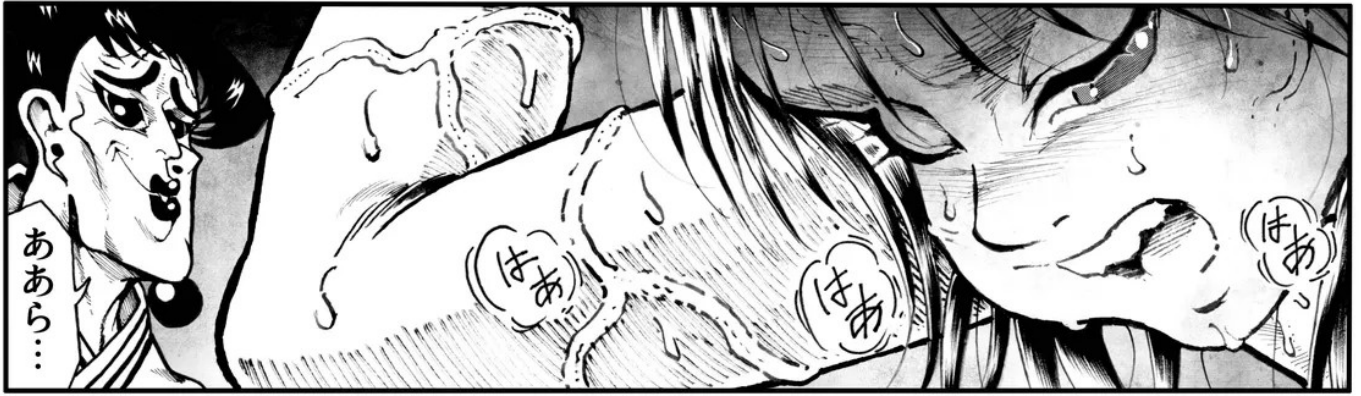
この棹ひょうほで
あなたの怪肉棒を
罨あんほう法ほうさせて
いただきたく…

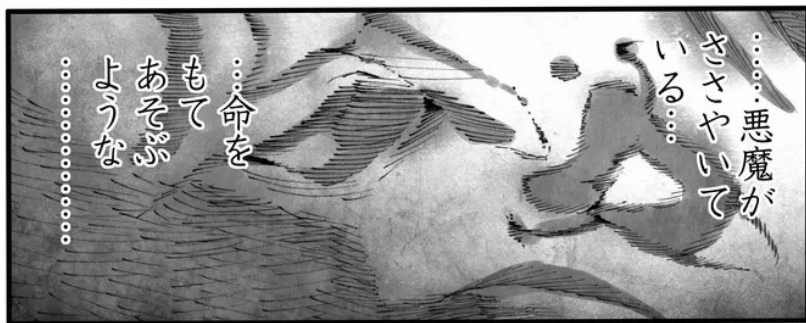
ただそれは
ひとえに
チン肉から
滋養をえて
ほしいだけ
なのですよ…

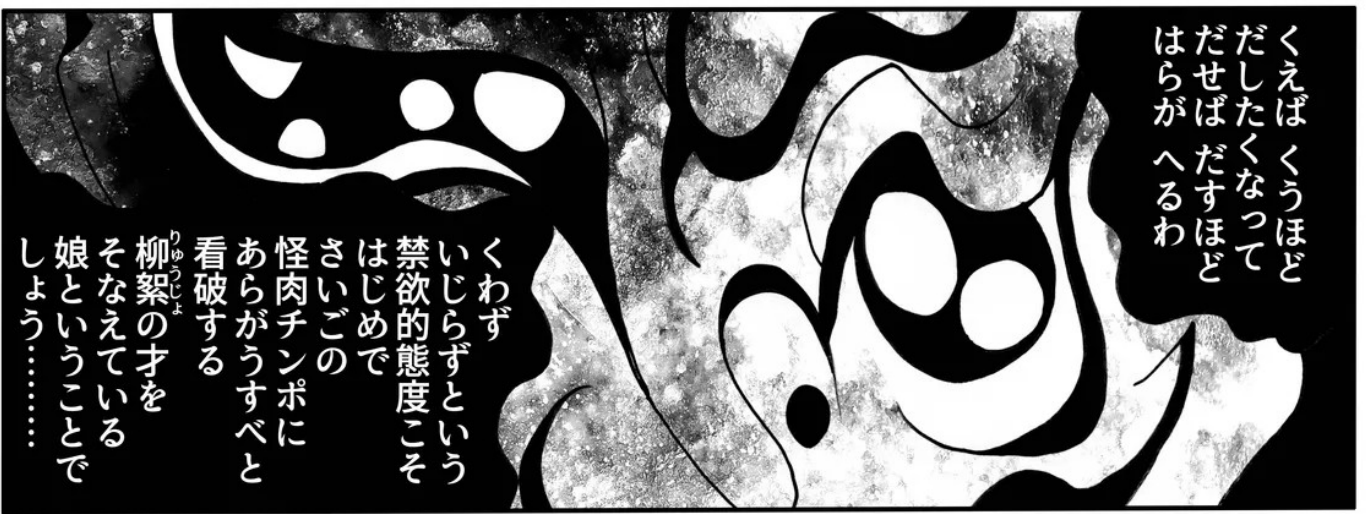


カチヤ
カチヤ









ギビビビビ

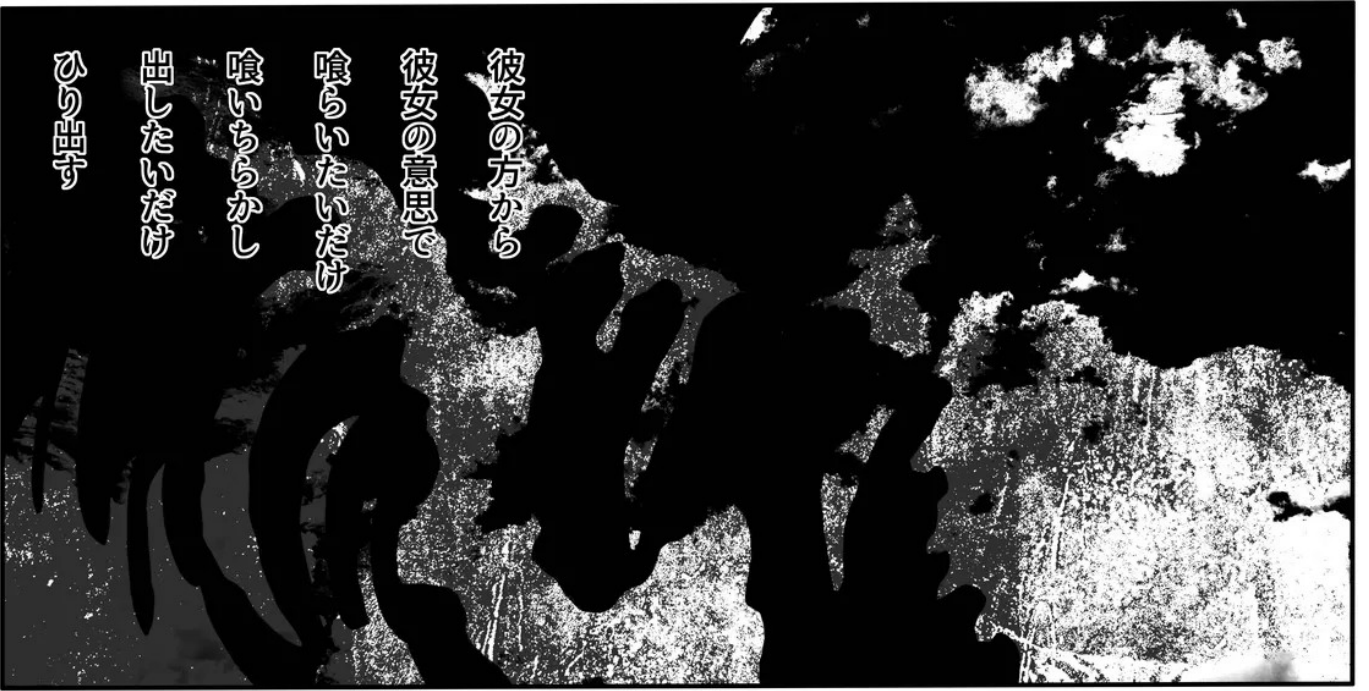
ワタクシたちの
やさしさに
つつまれ
彼女が
栄養不足で
なくなるような
かなしみは
とおざかり

いつの目か
ワタクシたちの
愛を
わかってもらえる

それまで
待ちましよう



彼女の方から
彼女の意思で
喰らいたいだけ
喰いちらかし
出したいだけ
ひり出す



その本性を
しずかに
まちましよう

まあ……..
誘うくらいは
よいでしょうか……



ビビビビビ……





はあ

はあ

はあ

はあ



とろいり
桃潤囊
(掉壺)

桃湯注ぐ
有水分
奇汗
koko
符合t

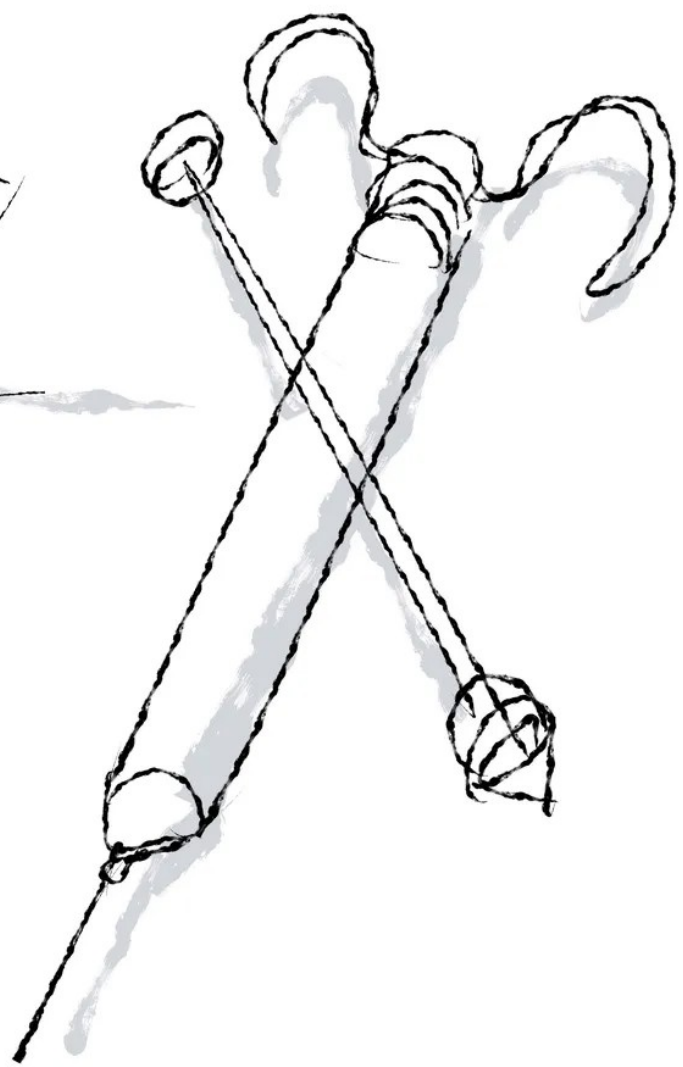
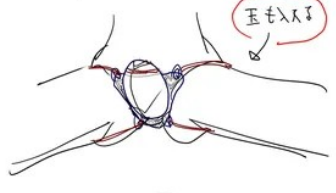


ヒンジ

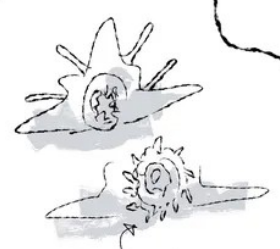


掉ツボ

玉も入る



怪肉棒



このお尻に
挿す
C.V.